



Tibet Action Institute

བོད་དོན་ལས་འགུལ་བསྐྱོ་གནས་ཁང་།



「私たちの子供を連れ去りに 彼らがやって来たあの日」

中国式寄宿制学校の実態とチベットの未来

謝辞

チベット・アクション・インスティテュートに本報告書の提供ならびに日本語訳出版の許可を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。本報告書の出版にあたりご支援を賜りました「スチューデント・フォー・フリー・チベット・ジャパン(SFT)日本支部」の皆様にご礼申し上げます。また、本報告書の翻訳にあたりご助力とご協力を賜りました「ドリーム・フォー・チルドレン」の亀田博文氏に深く御礼申し上げます。



本報告書は、Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License
によってライセンスを受けています。© Tibet Action Institute (2025) © 和訳チベット・ハウス・ジャパン



Tibet Action Institute は、強力なデジタル通信と戦略的非暴力行動を両輪として、チベットの自由を求める闘いを推進している。専門の活動家、戦略家、技術者の集団として、チベットの人権と自由を手にするために、未来を見据えた戦略、革新的トレーニング、教育、技術プログラムを開発、提供し、チベット人にツールと知識を備えさせている。詳細はこちら：<https://tibetaction.net> ・<https://tibethouse.jp>

**「私たちの子供を連れ去りに
彼らがやって来たあの日」**

中国式寄宿制学校の実態とチベットの未来

2025年5月

Contents

序文	1
要約と主な発見	2
はじめに	3
チベットとは何か?チベット人とは誰か?	8
自身の文化から切り離される子供たち	11
寄宿制の幼稚園	18
寄宿制学校での虐待と不当な扱い	23
中国政府の強制同化政策	31
子供たちへの心理的影響	35
植民地のイデオロギーから民族差別へ	38
結論:寄宿制学校の代替策とチベット人の抵抗	40
提言	42

序文

本書は、チベット・アクション・インスティテュートが2025年5月に発表した、中国によるチベットでの植民地的寄宿学校に関する新しい報告書の日本語翻訳です。最初の報告書は、2021年12月に「世界がまだ知らない真実 家族から引き離された子供たち 中国政府がチベットで展開する植民地的寄宿制学校」という題名のもとに発表されました。それ以来、世界中のチベット人および支援者たちはこの報告書を広く共有し、中国共産党がチベットの民族的アイデンティティ、言語、宗教文化を抹消しようとする致命的な政策に抗議してきました。

私たちは、強制的な植民地的寄宿学校の問題について、一般社会への周知を含め、政府、議会、人権フォーラムなど、さまざまなレベルで提起してきました。この問題は国連人権理事会でも取り上げられました。アメリカの「中国問題に関する連邦議会・行政府委員会(CECC)」は、2022年の報告書において、中国がチベットの子どもたちを中国式の寄宿学校で洗脳することにより、チベットのアイデンティティと宗教を破壊しようとしていると厳しく非難しました。国連専門家や世界各国の議員たちも、中国当局に対して懸念を表明しています。

日本においても、2021年の報告書を国会議員や多くの人々に紹介し、講演会などの公開の場で配布しました。また、チベット支援団体、南モンゴル、ウイグル、台湾、香港の仲間たちと連携し、中国共産党政権が子どもたちから言語、文化、宗教を奪おうとしている破壊的な政策と策略を広く訴えました。習近平の独裁体制のもと、中国は軍事力、貿易力、経済力を背景にますます権威主義的になり、国際社会の懸念や抗議を無視するようになっていきます。

私たちは、日本の国民、政府、国会議員、知識人、人権活動家の皆様に、この新たな報告書をぜひご一読いただき、強い声明(参考として最終ページをご覧ください)を発表していただくようお願い申し上げます。中国の指導部に対し、チベット、南モンゴル、東トルキスタンで進行しているこの「文化的ジェノサイド(文化的大虐殺)」を直ちにやめるよう強く求めてください。中国共産党は、チベットの子どもたちをこれらの抑圧的な寄宿学校から一刻も早く解放すべきです。

皆さまのご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

2025年12月10日

チベットハウス・ジャパン 代表:アリヤ・ツェワン・ギャルポ

要約と主な発見

チベット人の闘いは今なお続いている。中国政府による植民地主義的な弾圧下に何十年も置かれてきたにもかかわらず、チベット人は固有のアイデンティティを維持してきた。これを脅威とみなした中国政府が目をつけたのが子供たちだ。中国政府はチベット人の同化のための道具として子供たちを使っている。今、子供たちの生活のあらゆる面が弾圧に晒されている。その最たる例が、寄宿制学校と幼稚園だ。Tibet Action Institute が寄宿制学校に関する最初の報告書「世界がまだ知らない真実」を世に出してから4年になる。今回の報告書では、状況が悪化している新証拠を提示する。寄宿制学校は子供たち1人1人の生活を脅かしているだけではない。チベットの言語、文化、アイデンティティの未来を脅威に晒しているのだ。Tibet Action Institute は、チベットにおける寄宿制学校、幼稚園を中国政府に廃止させることを、国連、各国政府に対し要望する。

本報告書の情報源の多くは、チベット内に在住しているチベット人、近年亡命を果たした人々だ。彼らの貴重な証言から、以下のことが明らかになった。

- 寄宿制学校で、子供たちは、虐待や不当な扱いなどの大きな影響を受けている。
- 地方部では、寄宿制幼稚園に入らなければならない子供の年齢は4歳のこともある。
- 子供たちは学校が休みの際も、チベット語クラスや仏教の活動に参加できない。
- チベット語クラス、チベット語を使用した授業が廃止になっており、子供たちはチベット語能力を失っている。
- 家族から引き離され、中国のアイデンティティを意図的に植え付けられている子供たちは、心理的な問題を抱えるようになる。子供たちは、親と会えないトラウマや孤独感を抱えている。
- 寄宿制学校は、中国国内法、国際法違反である。数十年にわたって国連が中国政府に行ってきた勧告にも反している。
- チベット文化に根差した教育をつくろうとするチベット人の活動は中国政府により厳しく抑えつけられている。しかし、チベット人が運営する教育システムをつくろうとする情熱を持った専門家は今なお存在する。

はじめに

2024年6月、中国の習近平国家主席は、西寧の寄宿制学校を訪れた。子供たちに、笑顔を振りまき、挨拶をしていたが、同時に、「点検」も行っていた。子供たちは学校から約480 km離れた東チベットのゴロクの生まれであった。この様子を、地方の貧しいチベット地域で、教育にありつけない子供たちを支援しているとして、メディアは激賞した¹。

このわずか2日後、中国当局は、ゴロクにあるチベット人が運営する学校を閉鎖した。この場所は、まさに、寄宿制学校の子供たちの生まれ故郷であった。閉鎖された学校は地方に位置していたものの、数十年にわたり、数千人の子供たちに質の高い教育を提供してきた。授業は、チベット語、中国語、英語のような言語の授業に加え、現代的なカリキュラムや、伝統的なチベットの科目も存在していた。

習近平の学校訪問、チベットの主要な教育機関の閉鎖。これに対するチベット人の闘いは今なお続いている。中国によるチベット統治は70年以上にわたり続いている。弾圧は激しさを増している。その中で、チベット人は、文化、宗教、言語、民族の団結を諦めることなく維持してきた。チベット人の粘り強さ、チベット人固有のアイデンティティを中国政府は自身のチベット統治に対する脅威とみなしている。そして、中国政府は、抑圧的な監視、弾圧、刑罰を駆使してチベット人のアイデンティティを葬り去ろうとしてきた。しかし、それはうまくはいかなかった。そこで、中国政府が新たに目を付けたのがチベットの子供たちだ。中国政府の戦略はこうだ。寄宿制学校で子供たちを同化させ、彼らのアイデンティティを抹殺する²。

チベット人は文化、宗教、言語、民族の団結を諦めることなく維持してきた。チベット人の粘り強さ、チベット人固有のアイデンティティを中国政府は自身のチベット統治に対する脅威とみなしている。

本報告書は、寄宿制学校に関する新情報を提供するものだ。³ 情報源は、近年インドに亡命してきたチベット人、あるいは、今なおチベットに暮らす人々だ。内容は、2021年12月の Tibet Action Institute の報告書⁴の続編である。前回の報告書で、チベットの教育機関の多くが寄宿制になっており、6～18歳の子供80万～90万人が中国政府運営の寄宿制学校に暮らしていることが明らかになった。⁵ その後、チベット人教育社会学者がフィールドワークを基に推計を行い、4～6歳の子供たち少なくとも10万人が寄宿制幼稚園で暮らしていると報告している。⁶

チベット人の子供たちのアイデンティティを確実に中国化させるべく、中国政府は、チベットの子供たちがチベット語や文化に接するのを制限している。今回、私たちはこれに関する新たな証拠を入手した。学校が休暇中も、子供たちはチベット語クラスに参加することが禁じられている。家族が子供たちを宗教活動に関わらせることも禁止だ。地方部の多くでは、4～6歳の子供たちが寄宿制幼稚園へと連行されている。

1. Bastille Post Global, "Xi Visits Model High School on Inspection in Northwest China's Qinghai," June 19, 2024, available at: <https://www.bastillepost.com/global/article/3926006-xi-visits-model-high-school-on-inspection-in-northwest-chinas-qinghai> (accessed July 2, 2024), Internet Archive: <https://web.archive.org/web/20250503055115/https://www.bastillepost.com/global/article/3926006-xi-visits-model-high-school-on-inspection-in-northwest-chinas-qinghai>.

2. 2025年5月に学校の設立者が行った発表によると、スマートフォンの操作などを教える技術学校として将来再開校する許可が中国政府から下りたという。

3. 寄宿制学校は、チベット語では、བཅའ་སྐྱོད་སྐྱོབ་ཁྱེད། あるいは གྲྭ་སྐྱོབ་ཁྱེད། と表記する。中国語での表記は、「寄宿制学校」である。

4Tibet Action Institute, "Separated from Their Families, Hidden from the World: China's Vast System of Colonial Boarding Schools Inside Tibet," 2021, available at: <https://tibetaction.net/colonial-boarding-school-report>. 日本語版は、「世界がまだ知らない真実」(亀田浩史訳、ダライ・ラマ日本代表部事務所出版)。

5Tibet Action Institute, "Separated from Their Families, Hidden from the World" 23ページのディスカッション参照。中国当局は、寄宿制幼稚園、学校の拡大を続けており、18歳以下の僧侶や尼僧も寄宿制学校へ強制的に身柄を移されている。したがって、現在、寄宿制学校に暮らしている子供の数は、90万前後だと思われる。

寄宿制学校で、虐待や不当な扱いの事例が多くあることが研究により明らかになっている。例えば、教師が子供を殴る動画が広く拡散された。教師はときに椅子で子供を殴っていた。この動画はほどなくして削除された。この動画が撮影されたのは、2021年。東チベットのカムにあるチャムド第1小学校（中国政府の言うチベット自治区にある）の教室内の監視カメラが現場の状況を捉えていた。このことを知った人々は抗議の声を上げ、政府による調査が行われた。殴られた子供は、額に約8 cmの傷を負ったという。⁷

研究中に得られた1次情報は、私たちのこれまでの報告を補強するものだ。子供たちは家族から引き離され、中国語で教えられるカリキュラムを学ぶことになる。授業内容は、中国語、中国の歴史、アイデンティティなどだ。政治的洗脳まで行われている。そして、チベット人の子供たちは、自らの言語、アイデンティティを失っていく。最終的には、子供たちの心には大きな傷が残る。学校統合政策、チベット人が運営する学校の強制閉鎖により、両親に残された選択肢は、子供を寄宿制学校に送ること以外にない。この状況について、インタビューに応じてくれた人物がいる。

『親は子供に読み書きができるようになってほしいと思っています。そして、子供を学校に送り出します。しかし、学校から戻ってきた子供たちは、チベット語で家族と会話できなくなっています。』(近年のチベットからの亡命者)

子供たちを寄宿制学校に送りたくない親もいます。しかし、他に選択肢がないのです。親は子供に読み書きができるようになってほしいと思っています。そして、子供を学校に送り出します。しかし、学校から戻ってきた子供たちは、チベット語で家族と会話できなくなっています。子供たちが話すのは中国語です。家で中国語で会話するのは難しいです。中国政府が目論んでいるのは、チベット人の子供たちを中国人に変え、チベット人のアイデンティティを奪うことです。⁸

この10年間、習近平は、プロパガンダを使った政治教育を中国全土で着実にやっている。チベットでは、チベット人の子供のアイデンティティと世界観を変容させる植民地主義的な目的を持って政治教育が行われている。1949～1950年に中国によるチベット統治が始まってから、状況は悪化している。2001年に中国政府が始めた学校統合政策は、その数年後、チベットにも広がった。これにより、中国全土で数千の地方学校が閉鎖された。これに対し人々は抗議の声を上げた。そして、2012年以降、中国の学校統合政策は方針転換された。しかし、チベットなどではこの政策は維持された。⁹

今日、中国政府は、自らの目的を果たすために、チベット人の子供たちの生活を後戻りできないほどに変えようとしている。中国政府が展開する寄宿制学校は、国内法にも国際法にも違反している。国連人種差別撤廃委員会、子供の権利委員会、特別報告者、国連人権高等弁務官事務所などが中国政府に対して数十年人わたって出している勧告にも反するものだ。

世界中の政策決定者、国際機関、ジャーナリストが、寄宿制学校を通じてチベット人のアイデンティティを葬り去ろうとする中国政府の体系的な企みに注意を向け、この大規模かつ狡猾な人権侵害に警告を発してきた。これに対し、中国政府は、プロパガンダキャンペーンを展開し、寄宿制学校を非難する人々に政治的な動機があるとして、声高に激しく攻撃してきた。中国政府は、寄宿制学校が僻地に暮らす人々に質の高い教育という恩恵を届けていると主張する。そして、僻地での教

⁷The New York Times, "How China is Erasing Tibetan Culture, One Child at a Time," January 9, 2025, available at: <https://www.nytimes.com/interactive/2025/01/09/world/asia/tibet-china-boarding-schools.html> (accessed January 22, 2025).

⁸インタビュー 6

⁹Tibet Action Institute, "Separated from Their Families, Hidden from the World," 8ページ

育は現実的に不可能だと断じている。

しかし、本報告書で提示する証拠は、この中国政府の主張に反している。チベットの寄宿制学校を含む教育政策の現実は厳しい。

- ・地方部では、寄宿制幼稚園に入らなければならない子供の年齢は4歳のこともある。
- ・寄宿制学校で、子供たちは、虐待や不当な扱いなどの大きな影響を受けている。
- ・チベットの子供たちの成長に与える影響が大きいのは、家族ではなく、中国政府である。
- ・子供を寄宿制学校に送る以外の選択肢が親にはほとんどない。
- ・寄宿制学校は、家族、アイデンティティ、社会を分断している。
- ・中国政府は植民地主義的な戦略を使って、チベット人の心を変容させ、中国政府の方を向かせようとしている。チベット人のアイデンティティを喪失させ、チベット人が集団的な行動をとれないようにするためだ。
- ・それでも、激しい弾圧下に暮らすチベット人は抵抗を続けている。

本報告書は、中国政府の政策が国内法にも国際法にも反していることを示す。以下で、研究に用いた手法について述べる。その後、チベットとは何か、チベットの正確な位置はどこかについて論じる。さらに、チベットの子供たちを自身の言語、文化から切り離す中国政府の政策を検証する。寄宿制幼稚園に連行されている4～6歳の子供たちについても触れる。寄宿制学校で虐待や不当な扱いを受けた子供たちの新証拠も提示する。両親が脅迫を受け、子供たちを手放して寄宿制学校に送らなければならない状況についても説明する。さらに、寄宿制学校の短期および長期的な破壊的影響についても述べる。そして、最後に、チベット人が寄宿制学校に抗議している現状を鑑み、寄宿制学校の代替案を提示する。そして、中国政府、チベット人の人権状況を注視する各国政府、国連に対し提言を行う。

国内法および国際法に対する違反

中国政府がチベットで展開する寄宿制学校では、子供たちが自らの言語から切り離されている。中国政府は、積極的に文化を葬り去ろうとし、子供たちに肉体的・精神的虐待を加えている。この状況は、国内法、国際法の両方に違反している。

中国の法律は、チベット語の権利、とりわけ、教育の手段としてのチベットの使用を保証している。中国の憲法には、以下のように述べられている。

『**いずれの民族も、自己の言語・文字を使用し、発展させる自由を有し、自己の風俗習慣を保持し、又は改革する自由を有する。**』（中国憲法）

「いずれの民族も、自己の言語・文字を使用し、発展させる自由を有し、自己の風俗習慣を保持し、又は改革する自由を有する。」¹⁰

また、1984年の民族区域自治法第37条では次のように規定されていた。

「少数民族の学生が主に通う学校などの教育機関では、可能な時はいつでも、学生の言語の教科書を用い、学生の言語を使用して指導を行わなければならない。」¹¹

10The National People's Congress of the People's Republic of China, "Constitution of the People's Republic of China, Article 4," available at: https://english.www.gov.cn/archive/lawsregulations/201911/20/content_WS5ed8856ec6d0b3f0e9499913.html (accessed May 6, 2025), Internet Archive: https://web.archive.org/web/20250503230519/https://english.www.gov.cn/archive/lawsregulations/201911/20/content_WS5ed8856ec6d0b3f0e9499913.html.

11The National People's Congress of the People's Republic of China, "Law of the People's Republic of China on Regional National Autonomy, Article 37," 1984, available at: <http://www.china.org.cn/english/government/207138.htm> (accessed January 14, 2025), Internet Archive: <https://web.archive.org/web/20250506141826/http://www.china.org.cn/english/government/207138.htm>.

同法では、少数民族が通う学校では、中国語の授業は小学校高学年あるいは中学生から始めるものとし、幼稚園の段階では教えるはならず、小中学校においては指導の手段として中国を用いてはならないことが規定されている。¹² 民族区域自治法第37条は2001年に改正され、中国語の授業は小学校5, 6年生から始まるようになった。¹³

また、1991年に制定された未成年者保護法第27条では、次のように規定されている。

「学校及び幼稚園の教師、管理スタッフは、未成年者個人の尊厳を尊重し、公然とあるいは秘密裡に体罰を行ってはならない。未成年者の尊厳を傷つける、これ以外の行為も禁止である。」¹⁴

『チベットの子供たちを対象にした寄宿制学校は、チベット人を漢人に同化させる大規模プログラムと判断される。国際人権基準違反である。』（国連特別報告者）

寄宿制学校に関しては、積極的な文化同化、教育手段としてのチベット語の排除、脅迫下での家族の引き離し、私立学校の閉鎖が問題となっている。これらが様々な点で国際条約の義務違反であることを、複数の国連機関が指摘している。2022年11月、少数民族に関する特別報告者、文化的権利分野に関する特別報告者、教育の権利に関する特別報告者、宗教と信念の自由に関する特別報告者が中国側に書簡を送り、チベット人の子供に対する中国の政策が、複数の国際規範違反である旨を指摘した。¹⁵ここで抵触しているとされた国際規範は、世界人権宣言¹⁶、子供の権利条約5, 28, 29, 30条、経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約第13, 15条、あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約第5条、市民的及び政治的権利に関する国際規約第18条¹⁷、宗教および信念に基づくあらゆる形態の不寛容および差別の撤廃に関する宣言第2, 4, 5条、教育における差別を禁止するユネスコ条約第5条、その他の人権文書、韓国、ハンドブックである。特別報告者は次のように述べている。

「チベットの子供たちを対象にした寄宿制学校は、チベット人を漢人に同化させる大規模プログラムと判断される。国際人権基準違反である。」¹⁸

2023年3月、経済的、社会的及び文化的権利に関する国連委員会は、経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約に、中国政府が展開している寄宿制学校が違反していると述べ、特別報告者の報告に賛意を示した。¹⁹そして、委員会は中国政府に対し、「チベット人の子供たちが強制的

12 「幼稚園」と「未就学」は本報告書内では同義である。

13 Standing Committee of the National People's Congress, "Law of the People's Republic of China on Regional Ethnic Autonomy" (2001 Amendment), Article 37, available at: http://en.npc.gov.cn.cdurl.cn/2024-01/10/c_954912.htm (accessed January 14, 2025), Internet Archive: https://web.archive.org/web/20250514232721/http://en.npc.gov.cn.cdurl.cn/2024-01/10/c_954912.htm.

14 Standing Committee of the National People's Congress, "The Law of the People's Republic of China on the Protection of Minors," adopted 1991, last revised 2020, Article 27, available at: https://www.chinalawtranslate.com/en/protection-of-minors-2020/#_Toc53832361 (accessed May 11, 2025).

15 Mandates of the Special Rapporteur on minority issues; the Special Rapporteur in the field of cultural rights; the Special Rapporteur on the right to education; and the Special Rapporteur on freedom of religion or belief, "Communication to the Government of China," November 11, 2022, available at: <https://spcommreports.ohchr.org/TMResultsBase/DownloadPublicCommunicationFile?gld=27444> (accessed January 14, 2025).

16 第1条には、「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。」とある。特別報告者は、この内容を、少数民族の権利という枠組みで理解する必要があり、それ故、国家が領域内の少数民族を差別することを控えるべきと述べた。

17 第18条では、「すべての者は、思想、良心及び宗教の自由についての権利を有する。この権利には、自ら選択する宗教又は信念を受け入れ又は有する自由並びに、単独で又は他の者と共同して及び公に又は私的に、礼拝、儀式、行事及び教導によってその宗教又は信念を表明する自由を含む。」「何人も、自ら選択する宗教又は信念を受け入れ又は有する自由を侵害するおそれのある強制を受けない。」「父母及び場合により法定保護者が、自己の信念に従って児童の宗教的及び道徳的教育を確保する自由を有することを尊重することを約束する。」と規定されている。この点を特別報告者は指摘した。

18 Special Rapporteurs, "Communication to the Government of China."

19 United Nations General Assembly, "International Covenant on Economic, Social and Cultural Rights," December 16, 1966, available at: <https://>

に送り込まれている寄宿制学校の即時廃止」を求めた。²⁰ 2023年5月には、国連女子差別撤廃委員会も寄宿制学校が女子差別撤廃条約第36条に違反していると述べた。²¹ 同委員会は、中国政府に対し、「チベットの少女が強制的に送り込まれている寄宿制学校の廃止とチベットの私立学校の設立と資金援助の認可」を求めた。²²

研究の手法

中国政府の政策に疑問を呈し、批判したチベット人の身には危険が及ぶ可能性がある。このため、本報告書の研究は制約を受けている。チベット本土の人々は投獄などの厳しい処罰を受ける可能性がある。亡命先に暮らすチベット人も、家族がチベット本土にいる場合は、中国政府からの国境を越えた脅迫に直面する。インターネットも中国政府により厳しく監視されており、インターネット上での言動はすべて記録される。インターネット上の監視はAIの誕生で容易になっており、インターネット上の言動が犯罪の証拠とされる可能性が増している。検閲によりインターネット上の通信は難しくなっている。チベット人がオンラインで閲覧できる情報、やり取りができる相手は限られている。

さらに別の問題もある。独立した研究者やジャーナリストがチベット内を自由に移動することは中国政府により禁じられている。それ故、彼らが、本報告書で扱う問題の実態を独自調査するのも難しい。研究者やジャーナリストがチベット本土のチベット人とやり取りができるケースもまれにある。しかし、そのような場合も、中国政府からの報復を恐れ、問題についてオープンに語ってくれる人はほとんどいない。²³

本報告書の1次情報は、チベット本土に暮らすチベット人、あるいは、最近亡命に成功した人だ。これには、近年亡命したチベット人に対して2023～2024年に行った詳細なインタビューも含まれる。チベット本土のチベット人がインターネット上に投稿した情報もある。また、2022年1月から2025年4月にかけて、チベット本土のチベット人が亡命先のチベット人に送った約75の私的、あるいは、公的な文書もある。また、学術的な情報源、メディア記事、中国政府の公式発表にも私たちは注目した。

情報提供者の安全を考慮し、インタビューに応じてくれた人、オンライン投稿を行った人のほとんどの氏名、個人情報 は削除した。また、チベット本土のチベット人のインターネット投稿は、内容をわかりやすくするために改編した箇所がある。

www.ohchr.org/en/instrumentsmechanisms/instruments/international-covenant-economic-social-and-cultural-rights (accessed January 15, 2025).

²⁰Committee on Economic, Social and Cultural Rights, “Concluding Observations,” March 6, 2023, available at: https://tbinternet.ohchr.org/_layouts/15/treatybodyexternal/Download.aspx?symbolno=E/C.12/CHN/CO/3&Lang=en (accessed January 15, 2025).

²¹Article 36 provides that women and girls have the right to education. Committee on the Elimination of Discrimination against Women, “Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women – General recommendation No. 36 (2017) on the right of girls and women to education,” November 27, 2017, available at: <https://documents.un.org/doc/undoc/gen/n17/398/03/pdf/n1739803.pdf> (accessed January 15, 2025).

²²Committee on the Elimination of Discrimination against Women, “Concluding Observations,” May 31, 2023, available at: https://tbinternet.ohchr.org/_layouts/15/treatybodyexternal/Download.aspx?symbolno=CEDAW/C/CHN/CO/9&Lang=en (accessed January 15, 2025).

²³中国政府は、定期的に、海外メディアをチベットのプロパガンダツアーに招いている。彼らは、決められたスケジュールの下、ガイド同伴で移動する。中国政府からの報復を恐れて、チベット人は自由に話すことができない。まれに、チベット自治区外から、独立したジャーナリストがチベットに潜入できることがある。例えば、2024年、The Economist のデイビッド・レニーの例だ。The Economist, “Why China Takes Young Tibetans from Their Families,” June 13, 2024, available at: <https://www.economist.com/china/2024/06/13/why-china-takes-young-tibetans-from-their-families> (accessed October 17, 2024)].

チベットとは何か？チベット人とは誰か？

数十年にわたり、中国政府は、チベットとチベット人の存在を矮小化し、曖昧にしようと目論んできた。歴史的なチベットは、アムド、カム、ウ・ツァンの3地域からなる。しかし、1960年代、中国政府はチベットを分割し、新たな行政区分を置いた。これにより、チベットは、青海省・甘粛省、四川省・雲南省内に存在するチベット自治州およびチベット自治県、そして、チベット自治区に分割されることになった。

歴史的なチベットの地図

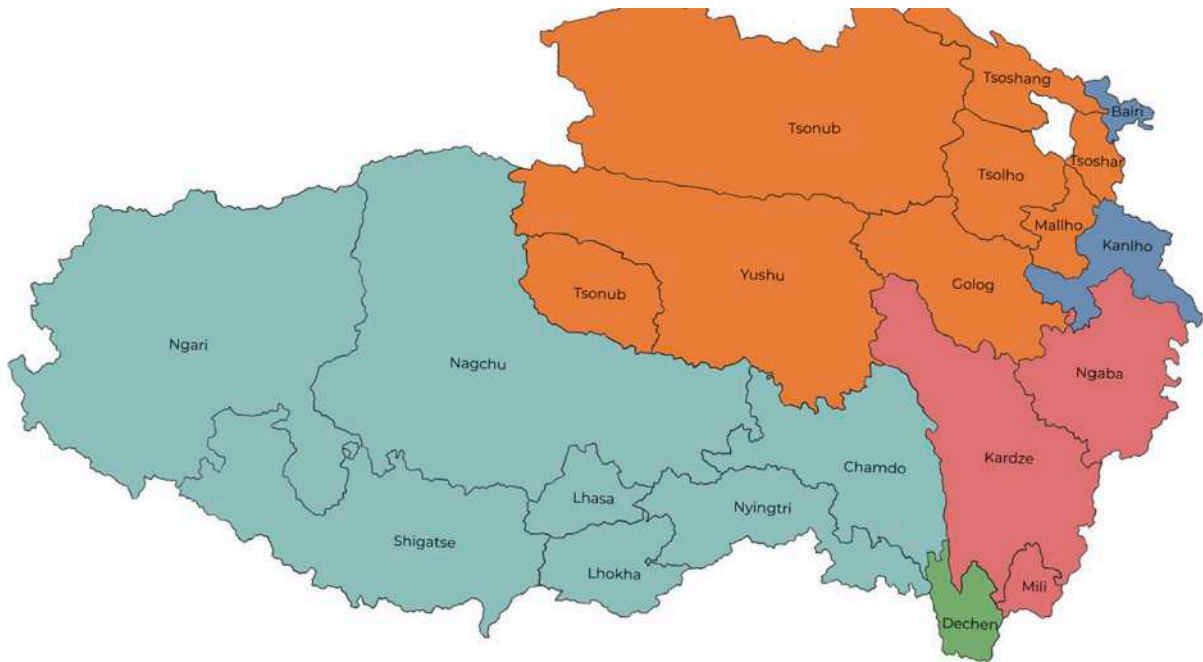


インドのダラムサラに拠点を置くチベット亡命政権作成の地図に基づいた歴史的チベットの地図

中国政府はチベットの境界を書き換えようとしている。チベット自治区(おおむねウ・ツァンに一致)だけがチベットという立場だ。しかし、中国政府作成の地図で、チベット自治区外の青海省、四川省、雲南省、甘粛省に、チベット自治州、チベット自治県が存在することから、中国政府の主張は矛盾している。青海省、四川省の大部分は、チベット自治州、チベット自治県である(次ページの地図参照)。チベット人の半数以上は、チベット自治区外に暮らしている。2008年に起きたチベット人の大規模な抗議活動以降、中国政府のチベット政策の対象は、チベット自治区にとどまっていない。全チベットが対象になっている。²⁴ しかしながら、中国政府は、チベット自治区のみがチベットであるという誤ったプロパガンダを発信し続けている。

²⁴International Campaign for Tibet, "Tibet's Importance Seen at Major Meeting Promising More Repression," September 1, 2020, available at: <https://savetibet.org/tibetsimportance-seen-at-major-meeting-promising-more-repression> (accessed September 22, 2024).

中国政府が設置したチベット自治州とチベット自治県



■ 青海省（アムド）のチベット自治州

■ 甘肅省（アムド）カンロチベット自治州とバイリチベット自治県

■ チベット自治区（ウ・ツァン）※チャムドは、歴史的にはカムに属する。

■ 四川省（アムド、カム）カルゼチベット自治州、ンガバチベット自治州、ミリチベット自治県

■ 雲南省（カム）デチェンチベット自治州

□ シリン（西寧）

歴史的にチベットの一部であるが、中国当局は、シリンを州レベルの都市としている。その管轄には、「チベット自治」町も含まれる。

中国政府は、チベットが歴史を通じて中国の一部であったというプロパガンダを自国民、国際社会に対して発信している。近年、中国政府は、チベットの代わりに「西藏」という言葉を使って、自身の主張を強固なものにしようとしている。中国政府は、今、「チベット自治区」を「西藏自治区」と呼んでいる。そして、「西藏」という言葉を世界的に広めようとしている。チベットが独自の政体であるという国際社会の理解を上書きしようとしているのだ。²⁵

²⁵International Campaign for Tibet, "China's External Propaganda on Tibet: Erasing Tibet to 'Tell a Good Chinese Story,'" January 11, 2024, available at: <https://savetibet.org/chinas-external-propaganda-on-tibet> (accessed September 22, 2024).

このような中国政府の意図的な動きにより、様々な点が曖昧になってきている。チベットとは何か、中国政府のチベット政策はどこに適用されるのか、政策の影響を受けるのは誰なのか。2023年2月、経済的、社会的及び文化的権利に関する国連委員会は中国に対する審査を行った。この報告書内で、チベットの多くの子供たちが寄宿制学校に収容されていることが問題とされた。これに対し、中国側は、チベット(中国側は「チベット自治区」のことを言っている)の学生の半数が寄宿制学校にいると回答した。中国側の役人は次のように続けた。

「寄宿制学校の子供の数が100万人であることについては、データの出所が不明である。私は別のデータを持っている。2020年時点で、チベット自治区の人口は364万人で、そのうち、320万人が少数民族だ。この点を考えると、寄宿制学校にいるチベット人の子供の数が100万というのはあり得ない。」
彼が話していたのはチベット自治区の話だけで、チベット自治区外のチベット人居住地の存在を認めなかった。²⁶

中国政府は批判をかわすために、チベット自治区外の存在を認めないプロパガンダを流している。しかし、実態は違う。2021年の私たちの報告書で、寄宿制学校が、アムド、カムド、カム、ウ・ツァン、すわなち、チベット全土に広がっていることが明らかになっている。

²⁶United Nations Committee on Economic, Social and Cultural Rights, 7th Meeting, 73rd Session, February 16, 2023, available at: <https://webtv.un.org/en/asset/k1v/k1vrez9w0u,at 2:49:32> (accessed September 2, 2024).

自身の文化から切り離される子供たち

続々と閉鎖される地方のチベット学校

2015年、中国国務院は、「民族教育の発展の加速に関する決定」を発表した。その目標は、「すべての少数民族の学生が、学校で学び、学校で暮らし、学校で成長する」とされた。²⁷ さらに、これを実現するためには、「長期的な国家の安定」が最優先とされた。²⁸ この目標は、チベットで遂行されつつある。村の学校、チベット人が運営する学校は続々と閉鎖されている。チベット人に残されたのは寄宿制学校しかない。僧院や尼僧院で学んでいた僧侶や尼僧も寄宿制学校へと送られている。伝統的に、僧侶や尼僧は僧院や尼僧院で教育を受けていた。僧院、尼僧院はチベットの教育と文化の基盤と考えられていた。家庭や社会で伝承されるはずであった文化、アイデンティティ、知識から子供たちは切り離されている。事態の悪化はこれだけにとどまらない。長期休暇中に学校外でのチベット語クラスに子供が参加することを中国政府が禁じているのだ。宗教活動に関わることも禁止になっている。

この15年間に中国政府がチベットで閉鎖した地方学校の数は数千に及ぶ。その一方で、新たに建設され拡大を続けているのは寄宿制学校だ。²⁹ このような学校の統合は、中国全土で2000年代初頭に起きていた。その後、抗議が相次いだことで、この政策は中断されていた。しかし、漢人以外が居住している地域では、寄宿制学校の政策が推進され、学校の閉鎖が進んでいった。³⁰



2021年7月に中国当局により強制閉鎖された東チベットのゴロクにあるチベット人が運営する学校センドゥク・タクツェ中学校の生徒たち(写真:The Joru Foundation)

27 Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education' Policy in Tibet," 2020, available at: https://www.hrw.org/sites/default/files/report_pdf/tibet0320_web_0.pdf (accessed November 21, 2024).

28 State Council, "Decision of the State Council on Accelerating the Development of Ethnic Education," National Document [2015] 46, issued August 11, 2015, available at: https://www.gov.cn/zhengce/content/2015-08/17/content_10097.htm, (accessed January 23, 2025), Internet Archive: https://web.archive.org/web/20250506142922/https://www.gov.cn/zhengce/content/2015-08/17/content_10097.htm.

29 Tibet Action Institute, "Separated from Their Families, Hidden from the World," 8-10.

30 Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education' Policy in Tibet," 77.



東チベットのゴロクにあるジグメ・ギャルツェンが設立したゴンジョン・シェリグ・ノルブ・ロ布林・スクールの閉校式で心を落ち着けることができないチベット人学生たち。(インドのダラムサラに拠点を置く Tibetan Center for Human Rights and Democracy が SNS に投稿した動画より。)

寄宿制学校以外の選択肢がなくなる中、チベット全土で中国政府はチベット学校の閉鎖をすすめてきた。³¹ これらの学校では、チベット人の知識、文化、伝統に根差したカリキュラムがチベット語で教えられており、国営学校の代替となる学校であった。このような学校が存在していたにもかかわらず、中国政府は教育施設の不足を理由にあげて寄宿制学校の拡大を正当化している。そして、チベットの学校の閉鎖が急速に進んでいる。

両親は子供に教育を受けさせたいと願っている。中国では、小中学校の9年間は義務教育だ。地方のチベット人学校が閉鎖されている今、義務教育を受けるには寄宿制学校に行くしかない。子供時代の大半を政府が管理する組織で過ごすことになることを親は受け入れざるを得ない。そして、親は子供を送り出す。ある人物は次のように証言した。

子供たちは9年間の義務教育を受けなければなりません。私の地域には学校はありません。そのため、両親は子供たちを寄宿制学校に送るしかないのです。³²

義務教育法は、僧侶、尼僧にも適用される。彼らもまた寄宿制学校に送られる。ある人物は次のように語った。

義務教育制度があるため、今は、若い子供たちが僧侶になることができません。以前は、ほとんどの家族が、子供1人以上を僧侶や尼僧にしていました。しかし、もうこれは不可能です。子供たちは国営の学校に行かされます。両親は脅迫を受け、殴られ、子供を学校に行かせなければ当局に訴えられます。両親が

31 See International Campaign for Tibet, "China Renews Attacks on Remaining Tibetan-language Schools," November 30, 2021, available at: <https://savetibet.org/china-renewsattacks-on-remaining-tibetan-language-schools/#7> (accessed January 21, 2025), Tibetan Centre for Human Rights and Democracy, "China Orders Tibetan Private Schools to be Closed and Students Enrolled in Chinese Medium Schools in Sershul County," April 22, 2022, available at: <https://tchrd.org/china-orders-tibetan-private-schools-to-be-closed-and-students-enrolled-in-chinese-medium-schools-in-sershul-county/> (accessed January 21, 2025), "China Shuts Down Highly Reputed Tibetan Private School Signalling Intensification of its Forced Cultural Assimilation Policy," July 19, 2024, available at: <https://tchrd.org/china-shuts-down-highly-reputed-tibetan-private-schools-signalling-intensification-of-its-forced-cultural-assimilation-policy/> (accessed January 21, 2025), Tibetan Centre for Human Rights and Democracy & Asian Dignity Initiative, "Thematic Report 2022; Sucked our Marrow: Tibetan Language and Education Rights under Xi Jinping," available at: https://tchrd.org/wp-content/uploads/2022/05/Tibetan-Language-and-Education-Rights-Under-Xi-Jinping_TCHRD-Thematic-Report.pdf (accessed May 12, 2025), Radio Free Asia, "China Closes Two Tibetan Monastery Schools, Sends Novices to State Boarding Schools," July 3, 2024, available at: <https://www.rfa.org/english/news/tibet/china-closes-two-monastery-schools-novices-state-boardingschools-07032024142557.html> (accessed January 21, 2025), Free Tibet, "Tibetan School Closures," available at: <https://freetibet.org/take-action/join-a-campaign/linguicide/tibetan-school-closures/> (accessed January 21, 2025), and Radio Free Asia, "Exclusive: Five Teenage Tibetan Monks Attempt to Take Own Lives," available at: <https://www.rfa.org/english/news/tibet/teenage-monks-attempt-take-own-lives-09092024153622.html> (accessed October 22, 2024).

32 インタビュー 3

高齢の場合は、両親以外の家族が脅迫を受けます。³³

別の地域のある親は、僧侶になりたがっている息子がいたと証言した。その親は息子を僧院に入れたという。しかし、役人が繰り返しやってきて、息子を僧院に行かせることは今後はできず、寄宿制学校に行かせなければならないと警告された。学校で息子がチベット語を学べないのではないかと心配したが、役人は脅迫を続けた。息子を僧院に送り続ければ、政府からの支払い、身分証明書の発行を停止すると、役人は告げた。³⁴

僧院の学校も閉鎖の憂き目にあっている。役人は親に対し、子供を寄宿制学校に行かせるよう強要している。2024年10月、東チベットのンガバの著名な僧院の学校が3つ以上閉鎖された。ムゲ、キルティ、タクツァン・キルティ僧院の6～18歳の学生1,500人超が僧院を追われ、ほとんどの学生が寄宿制の小学校、中学校、職業学校に入れられた。³⁵

また別の場所では、僧院の学校が運営されているにもかかわらず、僧侶が学校に通うことが禁じられた。あるチベット人は、これが悲劇につながったと証言した。

(安全上の理由で地名削除)では、僧院に学校があり、若い僧侶は標準的なカリキュラムを学んでいました。数学や理科の授業もありました。しかし、12、13歳以下の僧侶は寄宿制学校に行くよう命じられました。悲しいことに、2人の若い僧侶が強制的に寄宿制学校に連れていかれた後、自ら命を絶ちました。³⁶

僧侶や尼僧が寄宿制学校に送られ、チベット人の学校は閉鎖される。これにより子供にチベット式の教育を受けさせる選択肢は絶たれることになる。

チベット語の授業と宗教活動の禁止



ヒューマン・ライツ・ウォッチが入手した、ナンチェン県で2018年12月に発行された文書「僧院での違法な授業の停止に関する緊急通達」³⁷

33 インタビュー 5

34 インターネット投稿 65

35 Radio Free Asia, “China Closes Two Tibetan Monastery Schools, Sends Novices to State Boarding Schools,” and Radio Free Asia, “Exclusive: Five Teenage Tibetan Monks Attempt to Take Own Lives.”

36 インターネット投稿 93

37 Human Rights Watch, “China: Tibetan Children Banned from Classes: Authorities Declare Informal Sessions in Monasteries ‘Dangerous,’” January 30, 2019, available at <https://www.hrw.org/news/2019/01/30/china-tibetan-children-banned-classes> (accessed January 12, 2025).

これまでに述べたことが意味するのは、チベット人の子供たちが家族とのつながりを絶たれ、中国政府の影響下で生きているということだ。しかし、中国政府の暴挙はこれだけにとどまらない。学校の休暇中も、チベット人の子供たちがチベット語のクラスに通うことが禁じられているのだ。また、宗教活動にかかわることも禁止だ。2, 3か月になる長期休暇中、中国政府のカリキュラムでは不足するチベット語などの内容を、両親は子供たちに教えようとしてきた。しかしながら、この数年間で、チベット人が学校外でチベット語を学ぶ機会は事実上失われた。チベット語を教えて投獄された教師もいる。³⁸ また、休暇中に子供をチベット語クラスや僧院に送らないように親が署名を強要させられた事例もある。³⁹ 子供が寄宿制学校で学べなかったチベットの言語や文化を何とかして親は子供に教えようとするのだが、中国政府がそれを阻んでいる。チベット文化の伝承を子供につなぐ術がまた1つ、中国政府によって絶たれたのだ。

親は、子供を宗教全般から遠ざけるように中国当局から警告を受けている。Radio Free Asia は、子供の休暇中に僧院や個人が言語や文化などを教えることが禁じられている状況が数年間続いていることを報じている。2024年1月には、中国教育相からこの規制を徹底させる通達が出されている。この通達によると、チベット人の子供が休暇中に参加できるクラスは、中国政府が認可した個人や組織が教える、中国政府が認可した科目に限られるという。国から出されているこの通達は、地方当局に対し、規制の徹底を求めるものでもある。これにより、子供たちが宗教行事に参加することがますます難しくなっている。⁴⁰

この措置は、残忍な手法で徹底されている。役人が各家庭や商業施設を、昼夜を問わず繰り返し訪ね、子供がチベット語を勉強していないか、仏教活動に参加していないかを確認しているのだ。このような度を越した状況がチベット全土に広がっている。ラサ、ユルシュル州、ラブラン僧院から具体的な事例が報告されている。⁴¹

このような状況で生きるチベット人の心痛は計り知れない。子供にチベット式の教育を授ける手段が1つまた1つと絶たれていっている。

学校の休暇中にチベット語の文法、歴史、文化を学びに、かつては、チベット僧院のクラスに参加していました。しかし、この5, 6年、僧院のクラスは停止されています。⁴²

僧院の学校は、チベット語を学ぶ場でした。学校の休暇中、多くの親が子供を僧院に送っていました。しかし、その数は今、減少しています。唯一残された希望は両親です。今、子供たちにチベット語を教えることができるのは両親しかいません。⁴³

問題は休暇中のチベット語クラス禁止にとどまらない。中国当局は、子供たちが仏教を信仰しないよう強力なキャンペーンを行っている。仏教は、チベットの文化であり、アイデンティティである。ある人物は次のように証言した。

最近の学生は宗教活動にかかわることを許されていません。僧院を訪れるのは禁止です。私たちチベット人は、仏教の縁起のいい日は僧院に行くのです。しかし、学生たちにはそれができません。学生が僧院に行ったことが知れると、厳しい罰を受けるこ

『唯一残された希望は両親です。今、子供たちにチベット語を教えることができるのは両親しかいません。』（近年チベットから亡命したチベット人）

38 For example, see Free Tibet, "University Student Arrested after Teaching Tibetan," February 21, 2022, available at: <https://freetibet.org/latest/student-arrested-teachingtibetan/> (accessed February 24, 2025).

39 インタビュー3、インターネット投稿36

40 Radio Free Asia, "Authorities Enforce Ban on Tibetan Students Taking Outside Classes," January 9, 2024, <https://www.rfa.org/english/news/tibet/outsideclasses-01092024140335.html>, (accessed January 23, 2025).

41 Radio Free Asia, "Authorities Enforce Ban on Tibetan Students Taking Outside Classes."

42 インタビュー6

43 インタビュー5

とになります。⁴⁴

ある元学生は、この措置が寄宿制学校でどのように行われていたかを証言してくれた。

週末、帰宅が認められないときがあります。それは、仏教の祭りがあるときや、3月10日のチベット蜂起記念日、あるいは、チベット仏教の特別な日です。このような日が週末にあたるときは、週末の授業があります。家族行事や、宗教の特別な日のイベントに、彼らは子供たちを参加させたくないのです。子供たちは家族の集いの場に加わることができず、文化を知る機会を失うのです。中国文化にとって重要な日は、学校は休みです。平日に学校が休みだったときは、週末に代わりの授業があります。⁴⁵

これにより、チベット人の子供と親の分断が進んでいる。親は子供に仏教やチベットの価値観を伝承することができない。子供にチベットの文化を伝えようとする親は、子供の興味や幸福の邪魔をしていると見なされる。

ユルシュルに暮らす親は、2023年9月、ユルシュル市第2中学校から書簡を受け取った。その書簡には次のように記されていた。「子供が宗教を信仰しないよう教育するのは、学校と両親の義務である。(中略)いかなる組織も個人も、子供が宗教を信仰するよう促したり、仕向けたりしてはならない。学校内に宗教を信仰する人が存在する状況を作り出すような活動に関わってはならないのは言うまでもない。」⁴⁶ 書簡の内容は、中国共産党の宗教観そのものだ。

『子供が宗教を信仰しないよう教育するのは、学校と両親の義務である。』(ユルシュル市第2中学校からの書簡)

子供が宗教を信仰しないようにすることで、子供が健全に成長し、よりよい未来を手にすることが保証される。子供たちは宗教の影響をとっても受けやすい。違法な宗教活動の影響を受けることもある。極端な思想は、肉体的、精神的健康、そして、将来にまで影響を与える。

宗教を信仰する親も、宗教を信仰しない親も、子供たちが宗教活動を行う場に入らないよう、宗教活動に参加しないよう、そして、宗教訓練コース・サマーキャンプに参加しないよう教育すべきである。

書簡の最後には、無宗教が中国の安定に明確につながると記されていた。そして、親に対しては次のような要請がされていた。

「宗教が学校に入り込むのを防ぐための万里の長城を建設しなければならない。そして、学校の調和と安定を維持しなければならない。母国の長期的安定にふさわしい貢献をしなければならない。」⁴⁷

学校と自宅が近いにも関わらず寄宿制学校に入らなければならない子供たち

家が学校に近いにもかかわらず、寄宿舎に入らなければならない子供が多くいる。これが意味するのは、寄宿制学校は教育にありつけない場所に暮らす人に教育を

44 インタビュー 1

45 インタビュー 11

46 Lopsang Gurung, Bitter Winter, "Tibetan Parents Told They Should 'Educate Minors Not to Believe in Religion,'" August 11, 2023, <https://bitterwinter.org/tibetan-parents-toldthey-should-educate-minors-not-to-believe-in-religion/>, (accessed December 10, 2024).

47 Lopsang Gurung, "Tibetan Parents Told They Should 'Educate Minors Not to Believe in Religion.'"

届けるのが目的ではなく、チベット語、文化、伝統が伝承される環境からチベット人の子供を引き離すことが目的だということだ。

学校の近くに住む子供たちが寄宿舎に入らないといけないというルールは、チベット人の子供たちだけに適用されている。ジャーナリストはこう告げられた。「チベット人の子供のルールは違う。」

チベットに入ることができたThe Economist のジャーナリストは次のように述べている。チベット人農家・遊牧民の子供が「長く骨の折れる通学をする」必要性をなくするために寄宿制学校が存在するという中国側の主張に反し、学校の近くに住んでいる学生も寄宿舎に入っていることが確認された。これはチベット人の子供だけに適用されているルールで、イスラム教徒の回族には適用されていない。このジャーナリストはこう告げられた。「チベット人の子供のルールは違う。」⁴⁸

あるチベット人家族によると、ラサでは、かつて、小学校5年生から中学校1年の子供は家から通学していたという。しかし、3年前、新しいルールが始まり、子供たちは「教育都市」に住まなければならなくなった。「教育都市」とはラサ中心地から6 kmの場所にある大規模な寄宿制学校群だ。このような状況下で、寄宿制学校に対する国際的批判が高まった。これに対応するためか、子供たちは「理論的には」夜間は家に帰っていいことになった。しかし、学校に滞在しなければならない時間は、午前8時から午後9時30分で、子供たちが家に帰るのは現実的ではない。「この長時間拘束を親は快く思いません。子供が十分な睡眠をとれないからです。」そして、学校から家まで20分程度かかる子供たちは、今なお寄宿舎で暮らしている。⁴⁹



ラサにある「教育都市」の航空写真。寄宿舎が建ち並んでいることがわかる。国営メディア ECNS の2023年5月の動画より。⁵⁰

現地の幼稚園が閉鎖された結果、自宅が幼稚園から通園圏内にもかかわらず、寄宿制幼稚園に子供を入れるよう命じられていると語る人もいる。

この数年間、(安全上の問題で地名削除)にある9以上の幼稚園が閉鎖されました。そして、親は子供たちを寄宿制幼稚園に送るよう言われました。寄宿制学校が家に近い場合でも、親たちに選択肢はありません。寄宿制学校に送り込んだ子供の人

48 The Economist, "Why China Takes Young Tibetans From Their Families."

49 インタビュー 11

50 ECNS, "Daily Life of Students in Tibet Boarding School," May 15, 2023, available at <https://www.ecns.cn/video/2023-05-15/detail-ih-cpmkqz3537887.shtml> (accessed August 30, 2024), Internet Archive: <https://web.archive.org/web/20230515112235/https://www.ecns.cn/video/2023-05-15/detail-ih-cpmkqz3537887.shtml>.

学校の近くに住む子供たちが寄宿舎に入らないといけないというルールは、チベット人の子供たちだけに適用されている。ジャーナリストはこう告げられた。「チベット人の子供のルールは違う。」

数に関するノルマが当局にはあるのではないかと人々は考えています。⁵¹

2023年に中国の地理学者が記した論文の中にさらなる証拠がある。それによると、教育とは本来無関係であるはずの政治的な要因により、チベット人の子供を寄宿制学校に入れるよう政府がさらなる圧力をかけているという。研究で明らかになったのは、チベット自治区の小学生の大半が短時間で学校に通える距離に自宅があるということだ。実際、69%が現地の交通機関で30分以内で通学ができる距離に家があり、1時間以内の通学が可能な人は87%になるという。この論文の著者によると、学生は行政区画内のどこかの学校に行かされているという。著者たちは、学生が家から最も近い学校に通えるようにし⁵²、スクールバスも増やすよう求めている。⁵³

論文の著者によると、寄宿制学校に暮らす若い子供たちは、自分の心身に十分注意を払っていないという。そのため、家族からの精神的サポートが必要だという。「チベット自治区内で教育サービスが不足している地域を特定し、小学校の配置を最適化するための提案を行うことは、実用的に非常に重要だ。」⁵⁴しかしながら、今中国政府がやっているのは、子供たちが自宅から通学できるようにすることではない。チベットの子供たちを寄宿制学校に押し込めることに多額の資金が投入されている。そして、子供たちは、中国共産党の思想や慣習に晒されていく。

51 インターネット投稿 63

52 Cheng, Yang, et al. "Access and Cost of Primary Educational Services in Plateau Areas: A Case Study in Tibet, China." *Applied Geography* 152 (2023), 6.

53 Cheng, et al., 10.

54 Cheng, et al., 1.

寄宿制の幼稚園

Tibet Action Institute の以前の報告書は、寄宿制の小学校と中学校に注目していた。しかし、それよりも若い子供たちが寄宿制の幼稚園に入れられている証拠があがってきた。これはチベット全土で起きていることだ。現在、3、4歳から6歳までの子供たちが中国語の幼稚園に通うことが義務付けられている。⁵⁵都市部では、子供たちは通園が可能だ。しかし、地方部の多くでは、子供たちは4歳になると親元から引き離され、中国政府運営の寄宿制幼稚園に入れられる。あるチベット人は次のように証言している。

「地方の村に暮らす人々の多くは、子供たちを町の寄宿制幼稚園に送っています。子供たちはこの寄宿制幼稚園で暮らすことになります。」近年亡命に成功したチベット人

学校・幼稚園の設備があるのは、ほとんどの場合、町、県、大都市です。政府はすべての子供たちに幼稚園に行くよう命じています。そのため、地方の村に暮らす人々の多くは、子供を町の寄宿制幼稚園に送っています。子供たちはこの寄宿制幼稚園で暮らすことになります。幼稚園は年齢別に3クラスあります。年長クラスが終わると、小学校1年生になります。⁵⁶

寄宿制幼稚園の存在は、チベット全土のチベット人の投稿から明らかだ。Tibet Action Institute は、ウ・ツァン、青海省のレブコン、ツォジャン、ゴロク、甘粛省のカンロ、四川省のンガバに寄宿制幼稚園が存在していることを過去に報告している。これとは別に Tibet Action Institute が入手した情報もまた、寄宿制幼稚園への入園強制がチベットで広がっていることを裏付けている。情報提供者の安全上の懸念から、その詳細については公表できない。

寄宿制幼稚園について記した公開の文書はほとんど存在しない。国営メディアで取り上げられることはほとんどなく、公式文書で触れられることもない。物理的な管理のしやすさのためか、寄宿制幼稚園は、町が管理する寄宿制学校の中、あるいは隣に位置することが多い。これが意図的なものか偶然かは定かではないが、このことが原因で、遠隔で調査を行っている研究者が寄宿制幼稚園に関する情報を得るのは非常に難しくなっている。



寄宿制幼稚園の寮にいる子供。The New York Times の動画より。⁵⁷

⁵⁵ 中国の憲法では、幼稚園は義務ではない。しかし、チベットの地方当局は義務だと見なしている。ンガバ州では、地方当局が条例をつくった。しかし、その法的有効性については疑問が残る。例えば、以下の文献を参照されたい。https://karrpo.info/2018/05/03/legal-review-on-abas-education-regulation-in-tibet (accessed November 19, 2024).

⁵⁶ インタビュー 1

⁵⁷ The New York Times, "How China is Erasing Tibetan Culture, One Child at a Time."

メドゴンカルにあるタンギャ町中央小学校には、寄宿制幼稚園が併設されていることが確認されている。⁵⁸ しかしながら、Google Map や中国の検索エンジン百度で検索しても、検索結果はタンギャ町中央小学校となる。この場所で「子供の日」を祝っている子供たちに関するメディア記事があるが、学校については、寄宿制の小学校とだけ述べられている。⁵⁹

さらに調査を進めると、この学校を訪問した中国人ボランティアに関する記事があることが明らかになった。この記事もまた「小学校」という記載をしていた。掲載されていた写真を見ると、校門の看板の左側には「ラサ市メドゴンカル県タンギャ町中央小学校」、右側には「メドゴンカル県タンギャ町中央バイリンガル幼稚園」と書かれていた。⁶⁰

また、カンロにあるタンカルナン寄宿制学校にある幼稚園でインターンシップをした大学生の長編のインターネット日記も確認された。この幼稚園の存在は、ギャロ博士によっても確認されている。ギャロ博士は2021年にチベットから亡命し、Tibet Action Institute で勤務している。⁶¹ ギャロ博士の姪孫は寄宿制幼稚園で暮らしていた。ギャロ博士は、Tibet Action Institute に対し、学校の教師の日記に注目するように言った。しかし、Google Map や百度で検索をかけると、カンガン町中央寄宿制小学校という間違った名称の小学校が出てくるだけだった。インターネット検索では寄宿制幼稚園の存在は確認できなかった。

この学校のインターン教師は写真付きのインターネット日記を掲載していた。

ここはとても大きな場所です。小学校に併設された幼稚園です。幼稚園の年長は30人、年中は10人います。年長クラスの園児は基本的に中国語を話します。一方、年中クラスの園児はチベット語しか話せません。⁶²

この大学生のインターンは、典型的な1日について記している。それによると、子供たちは午前8時に朝食のために集められ、その後授業が始まるという。その後、昼食、昼寝がある。子供たちをトイレや遊び場にも連れて行かなければならない。「夕方の活動」の後、夕食がある。午後8時30分を過ぎると、子供たちを寮に戻す。それで1日の仕事が終わりになる。

「午後8時30分を過ぎると、子供たちを寮に戻す。それで1日の仕事が終わりになる。」寄宿制幼稚園でインターンシップをする大学生

「寄宿制幼稚園のため、子供たちが家に帰るのは金曜日。そして、日曜日になると幼稚園に戻ってくる。」⁶³

また、2019年5月にカルゼで開園した寄宿制幼稚園に関する珍しい新聞記事もある。その年の園児は433人で、「そのほとんどが遊牧民地域の生まれ」という。自宅が100 km以上離れている園児もいた。⁶⁴記事によると、幼稚園には、園児がホームシ

58 インターネット投稿 92

59 Sohu.com, “Tangjia Township, Mozhuogongka County: Tibetan Children Celebrate Children’s Day in Advance,” May 28, 2019, available at: https://www.sohu.com/a/317086558_114988 (accessed October 19, 2024), Internet Archive: https://web.archive.org/web/20250516092234/https://www.sohu.com/a/317086558_114988.

60 Yangtze Evening Post, 一路向西，建行人为爱再出发 [“Heading West, CCB People Set Out Again for Love,”] September 27, 2020, available at <https://www.yzwb.net/znccontent/869957.html> (accessed May 10, 2024), Internet Archive: <https://web.archive.org/web/20250516165020/https://www.yzwb.net/znccontent/869957.html>.

61 教育社会学者であるギャロ博士は、チベットにおける中国の同化政策・教育政策研究をリードする専門家。蘭州にある西北民族大学のチベット語・文化学部で教鞭をとった。トロント大学で教育社会学の博士号を取得。2017～2020年、雲南師範大学教育学部で教鞭をとった。チベットにおける中国の寄宿制幼稚園の影響範囲と影響度を独自のフィールドワークを通じて研究。中国当局から迫害を受け、カナダに亡命。Tibet Action Institute が2021年12月に寄宿制学校に関する最初の報告書を出すタイミングで、Tibet Action Institute はギャロ博士の研究について知った。それ以降、Tibet Action Institute はギャロ博士と協力して、寄宿制学校の影響について明らかにしてきた。2023年以降、ギャロ博士は Tibet Action Institute で勤務している。

62 “Chinese Volunteer Teacher in Gannan: It’s Not Easy to Say I Love You,” 2017, available at: <https://zhuanlan.zhihu.com/p/33843383> (accessed February 20, 2024), Internet Archive: <https://web.archive.org/web/20221202205909/https://zhuanlan.zhihu.com/p/33843383>.

63 “Chinese Volunteer Teacher in Gannan: It’s Not Easy to Say I Love You.”

64 Dute News, 高原学校拔地起 深山回荡读书声 深圳倾力推动甘孜州三县教育扶贫 [Plateau schools are built, the sound of reading echoes in the mountains, Shenzhen strives to promote education poverty alleviation in three counties of Ganzi Prefecture], December 12, 2019, available at: <https://www.dutenews.com/n/article/215034> (accessed January 22, 2025), Internet Archive: <https://web.archive.org/web/20241218034815/>

ックにならないようにするため、特別な飾りつけをした昼寝部屋とチベット文字が書かれた教室が存在していたという(添付の昼寝部屋の写真を見る限り、壁に月、星、パラシュートが描かれていることは確認できたが、チベット語と思われるものは確認できなかった)。

中国政府は、寄宿制幼稚園の園児数を公表していない。Tibet Action Institute はギャロ博士のデータを確認した。データは、カンロ、ンガバの2チベット自治州の7つの県の寄宿制幼稚園のものであった。各幼稚園の園児は、数十人から数百人であった。⁶⁵ (安全上の理由により公開しない前提でギャロ博士に渡されたデータのため、詳細なデータの公開は差し控える。)ギャロ博士は、アムド、カムの50を超える寄宿制幼稚園を渡り歩いた。この研究から、ギャロ博士は、チベット全土で10万人を超える子供たちが寄宿制幼稚園に暮らしていると推測している。⁶⁶

自宅と家族から切り離された子供たちは心に傷を負う。親もまたトラウマに苛まれる。海外に亡命したチベット人がBBCに親族の経験を告白している。5歳になったばかりの息子が寄宿制幼稚園へと連れて行かれ、家族と引き離された話だ。

「私の親族の話です。その親族は息子が狂ったように泣き叫ぶ声を聞いたそうです。彼の息子は窓から外に出ようとしていました。しかし、親族は息子を残して立ち去りました。」亡命先で暮らすチベット人

私に近い親族の話です。彼は息子を寄宿制幼稚園に残してくるのが辛かったそうです。そこで、彼は計画を立てました。教師にこう言ったのです。「息子を幼稚園に置いてくるとき、私は息子とちょっとだけ会話をします。そして、その場を立ち去ります。息子には『ちょっとだけ外に行く』と言っておきます。先生は息子に『お父さんはすぐ戻ってくる』と言ってください。私が立ち去ったら、息子がどれだけ泣きわめていてもドアの鍵を閉めてください。私の姿が見えなくなるまで鍵は開けないでください。そうしないと、息子は教室から逃げ出し、私を追いかけてくるでしょう。」その親族は息子が狂ったように泣き叫ぶ声を聞いたそうです。彼の息子は窓から外に出ようとしていました。しかし、親族は息子を残して立ち去りました。⁶⁷

チベット本土に暮らすあるチベット人も友人の経験として同様の証言をしている。親が子供を寄宿制学校に残してくるときに、子供を「鍵をかけた部屋」に閉じ込めていたというのだ。

「5歳や6歳の子供を寄宿制幼稚園に閉じ込めるのは想像を絶します。完全なる過ちです。」⁶⁸

寄宿制幼稚園の状況は極めて悪い。スタッフも足りていない。上で紹介した大学生のインターンの日記には、子供たちは羊の皮のベッドで寝ていると記されている。

「1台のベッドは、2, 3人の子供がシェアしています。下の段で寝る子供たちが外に転がり出ないように板が置かれています。上の段で寝る子供たちは下に落ちないように紐でつながれています。昼寝の時間、子供たちは頭を机につけて寝ています。」

日記には、昼寝中に鼻水を大量に流しながら眠る子供の写真が複数含まれていた。⁶⁹

<https://www.dutenews.com/n/article/215034>.

65 2019 dataset shared with Gyal Lo, reviewed by Tibet Action Institute March 2022.

66 Tibet Action Institute, "Eyewitness: China Operating Mandatory Boarding Preschools Across Tibet."

67 BBC, "Educating Tibet," March 7, 2024, available at: <https://www.bbc.co.uk/sounds/play/w3ct4m8g> (accessed October 2, 2024).

68 インターネット投稿 15

69 "Chinese Volunteer Teacher in Gannan: It's Not Easy to Say I Love You."



タンカルナン寄宿制幼稚園で複数の子供たちが共用しているベッド。大学生インターンのインターネット日記より。⁷⁰



メドゴンカル県タンギャ町にある寄宿制幼稚園の寮。中国人教師が Douyin に投稿した動画より。⁷¹

「日が暮れて暗くなると、自分のことは何もできません。お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんがいないのが寂しいです。」チベットで暮らす子供

ギャロ博士によると、この幼稚園では、子供たちのための基本的な物資や設備が不足しているという。服は不足し、ヘアブラッシング、体を洗うための設備も不足している。その1つの理由は、子供たちが、中国語を話す教師とコミュニケーションがとれないためだ。⁷² 2017年にフィールドワークをしている際にギャロ博士が出会った東チベットのゾルゲ出身の少年はこう語った。

「日が暮れて暗くなると、自分のことは何もできません。お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんがないのが寂しいです。」⁷³

胸が苦しくなる状況の中、愛する子供に何かできることはないかと親たちは腐心している。子供を寄宿制学校に置いてきた後、数週間車で寝泊まりする親もいる。少しでも子供の近くにいるためだ。また、寄宿制学校に収容されている村のすべての子供たちに支援を届けるべく、ある1家族が学校のそばにとどまるケースもある。学校そばに滞在している1家族の仕事は他の村人が代替する。⁷⁴

学校にいる子供たちが家族と連絡を取ることは非常に難しい。週末に家に帰ればいい方だ。まったく家に帰れないこともある。ある人物は、子供たちが遠く離れた他の県の寄宿制幼稚園に収容されていると語った。家族が子供を訪問できるのは、3か月に1回だという。⁷⁵ 友人の子供が寄宿制学校に収容されているある人物によると、週末に両親が子供を家に連れて帰ることは制度上は認められているという。しかし、

70 “Chinese Volunteer Teacher in Gannan: It's Not Easy to Say I Love You.”

71 “True Feelings of Four Years of Teaching in Rural Areas,” July 11, 2023, available at: https://www.douyin.com/user/MS4wLjABAAAfp-giWmq5OoLqrOQgMMm4E2amXdGbgBWx1ScZTuiv0BIROdQLapBxSBtse3SWyU?from_tab_name=main&modal_id=7254563242335391028.

72 ギャロ博士へのインタビュー（2022年4月10日）

73 Gyal Lo, fieldwork notes, 2017.

74 インターネット投稿 34

75 インターネット投稿 4

週末に両親が子供を家に連れて帰ることは制度上は認められている。しかし、学校が家から遠いため、ほとんどの子供は家に帰ることができない。

「家に帰ると、子供たちは中国語で親に話しかけます。子供の行動様式は中国式になってしまっており、チベットの行動様式は忘れてしまっています。」最近亡命したチベット人

学校が家から遠いため、ほとんどの子供は家に帰ることができないという。⁷⁶

家族から引き離され中国の環境に身を置かれた子供たちは自身の文化から切り離される。あるチベット人は自身が目撃した衝撃的な光景について語ってくれた。

寄宿制学校では、教師は中国語で子供たちとコミュニケーションをとります。教師は、子供たちに、毛沢東などの中国共産党の英雄、中国共産党、新しい中国を讃える政治的な歌を歌わせます。チベット語の授業はありますが、質はとても悪いです。その結果、ほとんどの子供たちは中国語しか話さなくなります。チベット語を話せる子供はほとんどいません。家に帰ると、子供たちは中国語で親に話しかけます。子供の行動様式は中国式になってしまっており、チベットの行動様式は忘れてしまっています。⁷⁷

物理的、言語的、文化的隔たりが長期間続くと、心と心の距離も遠くなっていく。ギャロ博士は、自身の姪孫と家族が寄宿制幼稚園からどのような影響を受けたのかを調査した。4, 5歳で寄宿制幼稚園に入った姪孫たちはチベット語の能力を失い始めていた。チベット語の代わりに中国語を話すようになっていた。中国語の環境に長時間晒されていた影響だ。さらに深刻なのは、姪孫が自宅にいる際に家族と物理的な距離をとっていた点だ。彼女たちは、ごく限られた会話を除いて、家族とは会話をしたならず、心と心の間には大きな距離が生まれていた。⁷⁸

寄宿制幼稚園の心理的影響は中国でもよく知られている。1990年代、チベット外の都市では、寄宿制幼稚園は中国人の親の間で人気であった。しかし、子供に与える心理的影響が明らかになるにつれ、人気は減衰した。そして、親たちは、通園制の幼稚園を選ぶようになった。2013年、ある中国人心理学者は、BBC に対し次のように語っている。

「私の患者に、幼い頃に寄宿制学校に通った人がいます。彼らは自分が捨てられたと感じており、物事に無関心になっています。彼らは、人生の中で自分の居場所を探そうともがいています。彼らは、家でどう振舞ったらいいのかわからなくなっているのです。残忍な現象です。」⁷⁹

幼い子供を家族から引き離し、自分の言語ではない環境に置くことは、国際法違反である。幼児教育の専門家の考えとも真っ向から対立するものだ。寄宿制幼稚園については複数の悪影響があることが確認されているにもかかわらず、中国政府はチベットで寄宿制幼稚園の設立を続け、幼稚園は今もチベットの地にそびえている。

76 インタビュー 1

77 インタビュー 1

78 Gyal Lo, "The One Million Tibetan Children in China's Boarding Schools," The New York Times, September 15, 2023, Op-ed, <https://www.nytimes.com/2023/09/15/opinion/china-tibet-boarding-school.html> (accessed September 30, 2024).

79 For example, see BBC, "Why Children as Young as Three Are Sent to Boarding School in China," November 5, 2013, available at: <https://www.bbc.com/news/magazine-24624427> (accessed January 14, 2025).

寄宿制学校での虐待と不当な扱い

2021年12月の私たちの最初の報告書の発表以降、寄宿制学校で多くの虐待と不当な扱いがあることが確認された。中国のプロパガンダ動画には寄宿制学校のキャンパスにいる幸せそうな子供たちの映像が映されており、子供たちの安全とケアが保証されているとさかんに宣伝されている。しかし、チベット人が語る実態はこれとは全く異なる。栄養失調、虐待、不当な扱いに子供たちが苦しんでいるという。しかし、問題を訴える術は親にはない。学校にいる子供に親が会うことは許されない。子供に健康上、安全上の問題が生じたときでも面会は拒否される。

学校で子供たちに与えられている食べ物の品質の低さを多くのチベット人が懸念している。健康上のリスク、問題を引き起こす可能性があるためだ。⁸⁰ ある親は、「学校の食べ物がひどく、子供が学校に行きたがらない。」と語る。⁸¹ 食べ物が古く品質が悪いばかりか、量も足りないと言う人もいる。⁸² Tibet Action Institute が注目した事実がある。それは、食料の質について懸念を表明した学校の年配の従業員が中国当局から脅迫を受けたという話だ。⁸³

学校では日常的に暴力があることを、親、教師、子供が証言している。

問題は食べ物の質だけではない。学校では日常的に暴力があることを、親、教師、子供が証言している。現在は亡命先に暮らす元学生によると、授業中に寮の点検が行われていたという。

「寮が汚いと判断されれば、罰として殴られました。」⁸⁴

子供に暴力をふるうことは違法だと教師は気付いていたようだと証言した人もいる。それにもかかわらず暴力は続いたという。⁸⁵ また、別の人物の証言によると、廊下や共用エリアには監視カメラがあるため、教師は子供たちをプライベートルームに連れて行き、激しく殴っていたという。⁸⁶ 子供間のいじめや暴力もあったという。その場合、学校側が介入したり子供を保護したりすることはなかったという。⁸⁷

2人のチベット人の証言によると、子供が仏教関係の道具を持っていたり仏教関係の活動を行ったりしていた場合は、体罰を受けていたという。この学校には寄宿制の学生と通学制の学生の両方がいた。

仏教関係の首輪や腕輪を身に着けたりチベット仏教の祈りを捧げたりすることは禁止でした。祈りを捧げたり仏具を身に着けていたりしているのが見つかったら、教師に殴られました。⁸⁸

ときに教師による暴力は度を越えるという。最近亡命に成功した人物からの情報によると、尊敬を集める地元の人物が暴力に気付くまで、教師による暴力が続いていたという。

80 インターネット投稿 7, 8, 47
81 インタビュー 10
82 インタビュー 9, インターネット投稿 8
83 インターネット投稿 24
84 インタビュー 12
85 インタビュー 6
86 インターネット投稿
87 インタビュー 6, インターネット投稿 47
88 インタビュー 2

「体に痣ができて
いる子供もいま
した。骨折をし
た子供もいま
した。殴られす
ぎて座るのもま
まならない子供
もいました。」
最近亡命に成功
したチベット人

中国人教師の暴力はひどかったです。体のいたるところを蹴って、殴りました。体に痣ができていた子供もいました。骨折をした子供もいました。殴られすぎて座るのもままならない子供もいました。⁸⁹

ある親は、休暇中に中学生の子供が帰ってきたときに、子供の体に痣ができていたことに気付いたという。⁹⁰ 寄宿制学校で働くあるチベット人によると、学校では暴力が蔓延しているという。教師はプレッシャーを感じ、そのプレッシャーを定期的に子供たちにぶつけているのだという。この人物は、子供たちが「鳥籠の中の鳥」のように感じたという。教師の子供への対応について親が口を挟むことはできなかったという。⁹¹

別のチベット人も、親が子供を守ることができないと語った。自宅と学校の距離が離れており、親は学校で起きていることを常時知ることができるわけではない。そのため、学校での出来事に関わるのは難しくなる。⁹² 別のケースでは、親が懸念を表明しようとしたときに、親と子供の両方が学校側から脅迫を受け、結果的に声を上げられなかったという。⁹³ 別の人物によると、子供が受けた暴力に親が気付いた時、学校側が、学校の味方をしてくれる警察を呼ぶことがあるという。学校と親の間に入るため呼ばれた警察は、必ず学校側に立つという。そして、親が不服を申し立てた場合、子供が報復されるのではないかと親たちは恐れてしまうという。

「体系的な問題です。」⁹⁴

インタビューに応じてくれたある人物によると暴力の対象になりやすいのは遊牧民だという。自宅は学校から遠く、親は子供に何が起きているか気付かないのだという。

寄宿制学校に暮らす遊牧民の子供たちの苦しみははかりしれません。料理や掃除をするのは中国人か回族です。彼らは、チベット人遊牧民のバックグラウンドを否定し、辱め、侮辱します。中国人スタッフに耳を叩かれ、耳が聞こえなくなった子供も複数います。

体罰は日常的にあります。遊牧民の親は遠くに住んでいて問題に気付かず、公式に不満を申し立てないからです。

私が小学校3年生か4年生の時、5年生か6年生が建物の5回から飛び降り、自殺しました。遊牧民の子供たちは、正直で素直です。しかし、この性格のせいで学校では見下され、辱められるのです。ある教師がその子を殴りました。すると、彼は建物から飛び降り、息絶えました。

「ある教師がそ
の子を殴りまし
た。すると、彼
は建物から飛び
降り、息絶えま
した。」寄宿制
学校の元学生

こうした話が外に漏れないように学校側はしています。遊牧民の家族は子供が死傷しても補償を受けられないことがほとんどです。⁹⁵

最近、チベット人の子供が虐待を受けたと主張する動画や、まさにチベット人が虐待を受けている最中の動画が、チベット外に流出した。中国の SNS に投稿された動画もある。こうした動画の流出は非常に珍しい。2024年11月には、アムドのツォンゴン地域のカンツァ県にあるツォキル町民族寄宿制小学校の運動場で、チベット人の子

89 インタビュー 5
90 インターネット投稿 38
91 インターネット投稿 14
92 インターネット投稿 16
93 インターネット投稿 8, 14 64
94 インターネット投稿 14
95 インタビュー 7

供が中国人の校長に殴られている動画が拡散した。⁹⁶ 動画には、中国共産党の地方秘書であることが確認された校長が、多くの子供や教師が見つめる中で立っていた。この動画は、学校の父母会で共有され、インターネット上に拡散した。その後、チベット人は動画のシェアを禁止された。親からは調査の要望があがったが、校長は今なおその地位にいる。⁹⁷



寄宿制学校の子供を殴った校長。Douyin に投稿された2024年11月の動画より。

別の事例では、2021年10月の寄宿制学校の監視カメラの映像流出がある。この動画には、他の子供たちがいる前で教師が1人の子供を殴っていた。ときには、椅子で殴っていた。⁹⁸ この事件が起きたのは、チャムドにあるチャムド第1小学校だ。この件を、The New York Times は次のように報じている。

中国のインターネットに投稿された動画は、削除される前に、1,000回以上再生された。暴力があった学校は、国営メディアによると、寄宿制学校だという。この動画を見た人たちは抗議の声を上げた。その後、地方政府が調査を行い、公式声明を発表した。それによると、子供は額に8 cmの傷を負ったという。そして、教師は停職になったという。⁹⁹

これらの事例からわかるように、子供たちは、虐待・不当な扱いを受け、ケアも十分ではない。子供たちは標的にされ、それが常態化しているのだ。以下で2つの詳細なケーススタディーを取り上げる。学校での不当な扱いがいかにひどいか、そして、それが子供とその家族にいかに残酷な影響を与えるかがよくわかる事例である。

96 Video available at: <https://s7712.pcdn.co/wpcontent/uploads/2024/12/video1Principalbeatschild.mp4>.

97 インターネット投稿 94, 95

98 Video available at: <https://tibetaction.net/wp-content/uploads/2025/01/Chamdo-Primary-School-CCTV-Beating-October-11.mp4>.

99 The New York Times, "How China is Erasing Tibetan Culture, One Child at a Time."

ケーススタディー 1

僧院から子供たちを去らせる意図的で不当な扱い

若い僧侶、尼僧は、とりわけひどい扱いを受けているようだ。仏教のバックグラウンドがあるためだ。2024年9月、東チベットのンガバで、若い僧侶5人が自殺をはかった。5人は僧院から強制退去させられ、中国国営の寄宿制学校へ送られていた。川へ飛び込もうとして周囲の人から止められた5人を映した胸が痛くなる映像がある。1人の子供は泣き叫んでいた。

「学校にいるのは耐えられない。刑務所のような。」

別の子供も声を上げた。

「ひどい食べ物しかもらえない。先生は僕たちを殴ってくる。」

さらに別の子供も口を開いた。

「僕たちは差別されている。学校の他の生徒とは違って、僕たちは通常のカリキュラムで教えられていない。先生からは殴られ、嫌がらせをされる。飲み水をもらえないときもある。」

もう1人も沈黙を破った。

「これはみんな本当の話。僕たちにはわざと飲み水が渡されない。病気になっても薬はもらえない。」¹⁰⁰

この5人は、2024年6月末にムゲ僧院を追われた僧侶と尼僧140人超の中の5人であった。僧院を追われた子供たちは、小学校で集中的な「愛国的再教育」を受けたという。親が子供たちのもとを訪ねることは許されなかった。その後、子供たちは、「再教育ツアー」のため、中国に連れて行かれた。親の許可はなかったと見られる。子供たちはツアー中に虐待を受けていた。1人の親がこのとき起きていたことについて語ってくれた。

6月、当局は、僧侶たちを僧院から連行し、近くの小学校に連れて行きました。門は完全に閉鎖され、僧侶たちは誰も会いませんでした。親たちは門のところに集まり、泣き叫びながら、子供に会わせてほしいと嘆願していました。若い僧侶たちは、運動をさせられ、軍事訓練を受け、中国共産党を讃える歌を歌わされ、中国共産党思想を植え付けられていました。僧侶たちに休みは1日ありませんでした。通常の学生の扱いではありませんでした。囚人のような扱いでした。子供たちがひどい扱いを受けているのを知った親は泣き叫んでいました。

中国へのツアーに連れて行かれた後、子供たちは学校には戻りたくないと言っていました。しかし、子供が学校に戻らなければ親を投獄すると、当局は親を脅迫したのです。彼らは子供たちを無理やりバスに乗せ、学校へと連行しました。学校は子供たちに食べ物も薬も与えませんでした。この刑務所のような学校から逃れるため、子供たち

「他の生徒とは違って、僕たちは通常のカリキュラムで教えられていない。先生からは殴られ、嫌がらせをされる。飲み水をもらえないときもある。」強制的に寄宿制学校に入れられた若い僧侶

は学校から走って逃げたのです。川に飛び込もうとした子供もいました。しかし、村人たちが彼らを止めました。大きな川だったので、飛び込めば命はなかったでしょう。¹⁰¹

子供を学校に送るように言われたある親は、子供が幸せに暮らせるよう当局と様々な約束をしたという。

役人が私たちの子供を学校に送るように言ってきたとき、彼らは、子供が危険な目に遭うかもしれないとは一言も言っていませんでした。学校がどのように子供の面倒を見るかについて、彼らは様々な約束をしました。病気になったら薬を与えると書いていました。医者に連れて行くと言っていました。家庭が貧しい場合は、経済的支援をすると言っていました。しかし、実際は、子供たちが学校から逃げ出さなければならないような状況だったのです。親が不満や懸念をぶつける場所はどこにもありません。

その親はこう続けた。

親として、子供を守るのは義務です。しかし、一家の主として、私は無力です。¹⁰²

「彼らは様々な約束をしました。しかし、実際は、子供たちが学校から逃げ出さなければならないような状況だったのです。親が不満や懸念をぶつける場所はどこにもありません。」
子供を強制的に寄宿制学校に入れられた親

101 インターネット投稿 86

102 インターネット投稿 67

ケーススタディー 2

「娘を連れ帰りに学校に行くと、娘は衰弱し、ほとんど歩けない状態でした。娘は担任から薬をもらっていませんでした。」

学校側の不当な扱いと家族に会えなかったことが原因で死亡した生徒

2022年、病気を患っていた13歳のチベット人の少女が死亡した。家族は、処方薬を学校に繰り返し届けようとしていた。学校側は生徒に薬を渡さず、彼女が重篤な症状を発した際も医療処置を怠った。

通常、チベット人が学校を批判することは滅多にない。政府から報復を受ける危険があるためだ。しかし、この生徒の家族によってシェアされたインターネット投稿には、子供の死の責任は学校にあると書かれていた。そして、子供の安全を高めることが必要だと、親、学生、教師、学校に訴えていた。¹⁰³ 以下はインターネット投稿の抜粋である。わかりやすくするために改編した箇所がある。

〇〇(生徒の名前)は13歳でした。〇〇(地名)の学校に行っていました。娘は、2019年と2020年に心臓の治療を受け、回復途上でした。学校の休暇期間の終わりに、娘に風邪と思われる症状が出ました。地元の病院で薬が処方されました。2022年3月1日に学校に戻るとき、娘は薬を持って行くのを忘れました。私たちは、薬を後で担任に届けると娘に言いました。

「私たちが薬を持って学校に戻ると、看守から立ち去るように言われ、娘とは直接会えませんでした。」

私たちが薬を持って学校に戻ると、看守から立ち去るように言われ、娘とは直接会えませんでした。そこで、私たちは担任に電話しました。担任は、娘に薬を渡し、必要なフォローもすると言っていました。その日にもう1度娘の状況を訪ねるために担任に電話しましたが、担任は出ませんでした。その翌日に担任に電話をすると、担任は娘の状況を確認しなかったと言いました。その3日後、担任は娘の具合はいいと言っていました。私たちは複数人で娘の状況を確認するよう担任に頼みました。必要なら学生証番号などの個人情報をシェアしてもいいと言いました。その後の2日間は、何度も電話したにもかかわらず、担任は電話に出ませんでした。その後電話に出た担任は、娘は元気で何の心配もないと言いました。それで、私たちは、娘は回復したのだと思いました。

それから2週間後、4日間の休日がありました。娘を連れ帰りに学校に行くと、娘は衰弱し、ほとんど歩けない状態でした。娘は担任から薬をもらっていませんでした。娘の健康状態を確認した学校スタッフもいませんでした。娘によると、担任は3月から学校に来ておらず、代わりに先生が来ていたということです。代わりに先生はとても厳しく、生徒は先生に何も言えなかったということです。3月以降、娘に高熱と嘔吐の症状が出て、症状は悪化していたそうです。体育で走った時、娘は気を失ったとのことでした。教師は娘を座らせましたが、医療的なアドバイスは何もしなかったそうです。

その後、私たちは娘を病院に連れて行きました。病院によると、治療が遅れたために、心臓や脳にも影響が出ているとのことでした。さらなる検査が続き、娘は、白血病と診断されました。心臓にも感染があるとのことでした。3月19日、娘は歩けなくなり、寝たきりになりました。そして、悲しいことに、それから6週間後、娘は息を引き取りました。

この少女が死亡した後、少女には病歴があったとして、学校側は一切の責任を否定した。家族に連絡を取らなかった責任、適切なケアを行わなかった責任を学校は

否定した。学校が適切に対応していれば、もっと早く親が対応できていたはずだ。家族は、娘の死は防げたはずで、娘の苦しみも軽減できたはずだと感じている。

上記は特殊な事例ではない。学校側の虐待、不適切な対応が原因で生徒が死亡したと疑われる事例が複数ある。2024年10月、マバ寄宿制学校で、小学校4年生がベッドの上段から建物の外に落ち、死亡したことを複数の情報筋が確認している。これを受け、当局は、緊急会合を開催したという。しかし、子供の死に関する調査が行われたのか、学校の役人に対する調査が行われたのか、子供の死の責任が誰にあるのかは明らかにされていない。¹⁰⁴

子供が学校の門の向こう側に行ってしまうと、親が子供と連絡を取るの難しい。

子供が学校の門の向こう側に行ってしまうと、親が子供と連絡を取るの難しい。ケーススタディー2のように、保護者が子供に会うのを邪魔したり、医療行為を妨害したりするケースは他にもある。¹⁰⁵ 子供が病院に行く必要があるときも、親が学校に入るのを拒否されたケースもある。そのとき、看守は担任に電話するよう言ったが、担任は電話に出なかったという。そして、看守は、担任が電話に出ないのであれば、子供に会わせるわけにはいかないと告げた。

選択の余地のない両親

これまで、私たちは、チベット本土に暮らすチベット人、そして、近年亡命に成功したチベット人にインタビューを行ってきた。その中で、彼らが口を揃えて言うことがある。それは、親に「選択の余地がない」ということだ。子供を寄宿制学校に送ることを強制され、拒めば、「嫌がらせ」、「脅迫」、「罰」を受ける。¹⁰⁶ 子供を寄宿制学校に送らなければ親を失業させると政府は脅迫する。¹⁰⁷ 暴力を使って親を脅迫するケースもある。¹⁰⁸ 親が高齢の場合、別の家族を警察が罰として働かせるケースもある。¹⁰⁹ 遊牧民の子供の場合、約30 km離れた学校に行かされることもある。役人に従わなければ嫌がらせを受けることになる。¹¹⁰ カルゼチベット自治州では、政府からの経済支援が打ち切られるケースがあることも確認された。

小学校1年生になると、子供たちは寄宿制学校で暮らさなければなりません。学校は家から100 km離れた場所にあります。子供たちは、1、2週間に1度、家に帰ることが認められています。遊牧民の親が子供を学校に送らなければ、政府からの助成金が打ち切られます。¹¹¹

ムゲ僧院の子供の僧侶・尼僧の家族のもとには役人が頻繁にやって来たという。

「毎日複数回役人がやって来て、家のドアを叩き、子供を(政府の)学校に送るよう言いました。」

子供の教育が重要だというメッセージをすべての親が役人から受け取った。同時に、子供を寄宿制学校に送らないのは違法だと警告された。最初のうちは、子供は医療などの十分なケアを受け、親が望んだときは帰宅することができると役人は説明した。また、子供を行かせる学校を親が選ぶことができるとも説明した。しかし、約束はすべて反故にされた。親たちは言う。

104 インターネット投稿 87

105 インターネット投稿8, 22, 49, 64, 67、インタビュー 2

106 インターネット投稿 2, 39, 34, 45, 63, 77、インタビュー 5, 12

107 インターネット投稿 25

108 インターネット投稿 34, 45、インタビュー 5

109 インタビュー 5

110 インターネット投稿 34

111 インタビュー 10

「私たちの子供を連れ去りに彼らがやって来たあの日、彼らは、私たちが匿っている犯罪者を探しているかのようにでした。子供を連行するために、彼らは、ありとあらゆることをしました。」¹¹² 子供が強制的に寄宿制学校に入れられている親

「私たちの子供を連れ去りに彼らがやって来たあの日、彼らは、私たちが匿っている犯罪者を探しているかのようにでした。子供を連行するために、彼らは、ありとあらゆることをしました。」¹¹²

様々な形態の圧力や脅迫を通じて、人々が言うことを聞くまで精神的に追い詰める。これは中国の政治用語で「思想工作」と呼ばれる。この思想工作が、チベット人の子供を寄宿制学校に行かせるために使われていることが複数の証言から確認されている。最近の中国季刊の記事で、ヨンテン・ニマとエミリー・イェーが、チベット人遊牧民の子供を遠くの寄宿制学校に行かせる中国政府の手法について触れている。中国政府は、親に草原を捨てさせ、都市に再定住するよう「説得」しているという。記事では、当初、都市への再定住を渋っていた家族が紹介されている。この家族の子供は自宅から40 kmほどの距離にある寄宿制学校に入れられていたが、中国政府は、この家族の自宅から600 kmほどの場所にある寄宿制学校へと転校させた。子供の学校が自宅からあまりに遠くなったこと、そして、役人から思想工作を受けたことで、最終的に、家族は子供が新しく通う学校の近くの都市に移り住んだ。¹¹³

故郷を捨て子供が暮らす寄宿制学校の近くへ移り住んだ家族の事例が他にも2つ確認できた。¹¹⁴ また、2020年の国営メディアの記事では、カルゼにある大規模寄宿制学校に関する記述がある。「条件を満たす約1,000人がカルゼで家を借り、子供の勉強に付き添っている。」¹¹⁵ 中国政府は、子供を家族や文化から引き離し、国家の監視下に置くという目標だけでは飽き足らない。チベット人の伝統的な生活様式、社会構造をも破壊しようとしているのだ。これらの狙いは、未来のチベット人を新たな中国人につくり変えることだ。

112 インターネット投稿 67

113 Nyima, Yonten, and Yeh, Emily T. "The Construction of Consent for High-Altitude Resettlement in Tibet." *The China Quarterly* 254 (2023): 430, available at: <https://www.cambridge.org/core/journals/china-quarterly/article/abs/construction-of-consent-for-highaltitude-resettlement-in-tibet/4690C1EAD2E1B3E798E205AC6DB14304>(accessed January 13, 2025).

114 インターネット投稿26、インタビュー 11

115 China Tibet Net, 四川甘孜县让边远牧区孩子享受公平优质教育 ["Ganzi County, Sichuan, enables children in remote pastoral areas to enjoy fair and high-quality education,"] April 27, 2020, available at https://m.tibet.cn/cn/news/yc/202004/t20200427_6769741.html, Internet Archive https://web.archive.org/web/20250515031634/https://m.tibet.cn/cn/news/yc/202004/t20200427_6769741.html.

中国政府の強制同化政策

チベットにおける中国の教育政策の狙いは、チベットの子供たちを自身の文化、言語、アイデンティティから遠ざけることだ。寄宿制学校で家族から引き離された子供たちは、中国共産党思想を浴びせられる。この際、綿密につくられた画像、文章、歌などが使われている。すべて中国語のものだ。近年亡命に成功したチベット人は次のように語った。

寄宿制学校での思想教育は子供が幼い時から始まります。親元から引き離された子供たちは、チベット語を話すことを禁じられます。授業は中国語で行われます。中国語を学び、話せるようになるように強制されます。歴史は、中国政府が認可した歴史だけが教えられます。¹¹⁶

「習近平とその指導力、国に感謝する作文を書けば、いい成績がもらえました。エッセーや絵は、中国共産党、国、軍をどれだけ讃えることができたかで評価されていました。」寄宿制学校の元学生

学校で子供たちは、中国人のアイデンティティ、中国の歴史、中国の文化、中国共産党の重要性について繰り返し叩き込まれる。教室で行われていた政治教育について、寄宿制学校の元学生が語ってくれた。

教室の壁に貼られた教育資料はすべて中国語でした。教師も全員中国人でした。すべての教室に、習近平、毛沢東、鄧小平、江沢民、胡錦濤の写真が飾られていました。クラスでは、習近平思想が教えられていました。¹¹⁷ 習近平思想は学校のカリキュラムでした。習近平とその指導力、国に感謝する作文を書けば、いい成績がもらえました。エッセーや絵は、中国共産党、国、軍をどれだけ讃えることができたかで評価されていました。¹¹⁸



中国共産党に感謝し、忠誠を誓わせる教育の中で、子供たちは軍を讃えるよう教えられている。子供の日に、村の幼稚園(全日制)の園児は軍事訓練に参加させられている。
2023年6月1日にアバ県メディアセンターが Douyin に投稿した動画より。

116 インタビュー 2

117 習近平思想は、2021年から学校のカリキュラムに公式に組み込まれた統治原理である。習近平思想という名がついていることは、習近平を毛沢東と同レベルの重要人物に高める狙いがあると見られる。

118 インタビュー 12



2023年5月30日、ラプランチベット幼稚園で行われた子供の日のパフォーマンス。テーマは、「小さな中国人の心、深い愛国心」。幼稚園は、全日制と寄宿制が存在している。画像は Douyin より。¹¹⁹

中国の全学生が、政治化されたカリキュラムの影響下にある。このカリキュラムの狙いは、習近平と中国共産党への忠誠心を育むことだ。チベットにおける教育は、チベット人としての自覚を体系的に奪い、自らを中国人と見なすよう操作することだ。「中国の一員としての感覚」が最優先であり、チベット人は中国人の中のサブカテゴリーに属すると教えられる。¹²⁰

ギャロ博士は寄宿制学校のシステムはチベットの伝統的な教育哲学に反しており、悪影響が出ていると語る。

寄宿制学校のシステムは、あらゆる年齢のチベット人の子供に影響を及ぼしています。影響の範囲は、アイデンティティから、価値観、チベット全土に広がるチベット人独自の文化的慣習にまで及びます。チベット人の物の見方は、思いやりの心と智慧を意図的に育むことを基本にしています。しかし、寄宿制学校のカリキュラムは、生活の価値を下げるものです。それは本人にも周りの人にも当てはまります。本質的に、寄宿制学校のシステムは、チベット人の生活様式を根本的に作り変えるものです。¹²¹

寄宿制学校は、政治的洗脳のためにプロパガンダをチベットの子供たちに浴びせている。そして、攻撃的なやり方で、言語、文化を抹殺している。幼稚園児であれ、子供たちはほぼ中国語で教育される。チベット語の画像や教材は、教室内外を問わず禁止されているとの証言が複数ある。子供たちが目にするのは、中国のアイデンティティと文化だけだ。中国語の教材とともにチベット語の教材を生徒に渡そうとした教師たちがいたが、この教師たちは叱責されたという。¹²² 別の証言によると、幼稚園でのすべての活動が中国語で行われ、チベットのゲームで遊ぶことも禁止だったという。¹²³ 近年インドへの亡命に成功し

119 <https://www.douyin.com/?vid=7239167202669153548> (accessed May 10, 2025).

120 「中国の一員としての一体感」という言葉は習近平がよく使っている。例えば、下記。Xinhua, “Xi Stresses Ecological Conservation on Qinghai-Xizang Plateau, High-quality Development,” June 21, 2024, <https://english.news.cn/20240621/6861339a5cea4e-a58e104862058af8a6/c.html> (accessed February 25, 2025), Internet Archive: <https://web.archive.org/web/20250506143908/https://english.news.cn/20240621/6861339a5cea4e-a58e104862058af8a6/c.html>.

121 ギャロ博士へのインタビュー（2025年4月25日）

122 インターネット投稿 4

123 インターネット投稿 72

た人物は次のように証言した。

「中国政府は、私たちの言語、伝統、文字を消し去ろうとしているように感じます。」近年亡命に成功したチベット人

中国政府は、私たちの言語、伝統、文字を消し去ろうとしているように感じます。私が学校にいた頃は、チベット語とチベットの歴史が教えられていました。しかし、今ではすべての教科書が変更されています。状況は以前とは完全に違います。子供たちは、チベット語もチベットの歴史も学ぶことができません。子供たちは中国語を教えられ、中国人作家が書いた中国の歴史を刷り込まれています。¹²⁴

中国政府は、チベット人学生が「バイリンガル教育」を寄宿制学校で受けているというプロパガンダを大々的に発している。また、チベットの子供たちに、チベットの文化と遺産の大切さを教えているとも主張している。中国政府の言う「バイリンガル教育」という言葉を好意的に受け取ったとしても、学校で使われる言語の大半は中国語で、チベット語は僅かである。¹²⁵ 寄宿制学校について報じる中国国営メディアが流す映像は、両親、祖父母、チベット人教師の笑顔。また、寄宿制学校を擁護する学者の映像が流れる時もある。¹²⁶ しかしながら、チベット人はインターネット上で懸念を表明している。絶望しているチベット人もいる。学校のカリキュラムは続々と中国式カリキュラムに変えられている。深刻な懸念は、あと数年で、チベット語が話せない世代が生まれるということだ。

あるチベット人が、チベット人の子供のチベット語能力の劇的な変化について語ってくれた。

子供たちは海外生まれの子供たちようになってしまっています。子供たちは中国語しか話しません。親が話すチベット語を理解してはいますが、子供たちの口から出てくるのは中国語だけです。子供たちが使うメインの言語が中国語になっています。日常会話で子供たちが使うのは中国語だけです。子供たちは、月曜日から金曜日まで学校にいなければなりません。チベット語は今危機的な状況です。¹²⁷

現在海外に亡命している寄宿制学校の元学生によると、学校は中国語漬けで、短いチベット語の授業しかなかったという。ラサの寄宿制学校で学んだ経験を持つ人物は次のように証言した。

「チベット語授業以外のすべての時間は中国語の環境でした。」寄宿制学校の元生徒

週に1度しかチベット語の授業はありませんでした。授業は45分でした。チベット語の授業を教えるチベット人の先生は中国語を使っていました。チベット語授業以外のすべての時間は中国語の環境でした。¹²⁸

別の元学生も、中国語、数学、チベット語、理科、美術、体育、ダンス、音楽といったすべての授業が中国語で教えられていたと証言した。チベット語が聞こえるのはチベット語クラスだけだったという。休み時間には、中国国歌や、「中国共産党、国、人民解放軍を讃える歌」を歌わされたという。そして、学校側は、生徒たちに「中国語を使う」よう言っていたという。¹²⁹

現役の学生の証言もある。

124 インタビュー 1

125 Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education' Policy in Tibet," 1.

126 例えば下記。CGTN, "Life at a Boarding School in China's Xizang Autonomous Region," available at: <https://www.youtube.com/watch?v=oauiAGiWjRc> (accessed March 14, 2024).

127 インターネット投稿 93

128 インタビュー 11

129 インタビュー 12

私の学校のほとんどの先生が中国人です。チベット語を話せる先生はほとんどいません。チベット語を話せる先生が教えるのは、チベット語の授業だけです。チベット語の授業以外は、すべてが中国語で教えられます。¹³⁰

一方、中国政府の耳障りなマウスピース環球時報は、中国チベット学研究センターの中国人学者の声を掲載している。この学者は、チベット語を破壊し、中国語を推進する動機について詳述している。

国の共通の言語を使うことが、国家の団結と西藏自治区(チベット自治区のこと)の繁栄を達成するための唯一の手段である。国家の共通言語を学び、使用することが、国家の団結を維持し、国家の安全を守るために重要である。西藏地域は、中国の重要なイデオロギーの戦場である。この地では、悪意ある外国勢力が分裂活動を試み、潜入しようとしているからだ。¹³¹

ある大きな学術
研機関も、特に
小学校以前の段
階では、母語で
の教育が、学生
時代の子供の成
功につながる最
良の方法である
ことを示してい
る。

チベット人の子供を幼い時から中国語漬けにすることで、子供たちの将来の成功や幸福の機会が奪われる可能性がある。ある大きな学術機関も、特に小学校以前の段階では、母語での教育が、学生時代の子供の成功につながる最良の方法であることを示している。¹³² 研究者によると、真のバイリンガルになるには、6~8年間母語をベースにした教育を受け、その後、母語の学習を続けながら徐々に第2言語に移行するのがいいという。¹³³ ある研究者は、「最も確立された発見」は、強力なバイリンガルプログラムを行えば、多数派の第2言語の学習を妨げることなく、少数派の第1言語の識字率、学習効果を向上させることが可能だと述べている。¹³⁴

子供が早い段階で、あるいは、急なスピードで第2言語学習に強制移行されると、母語の能力が急速に失われると研究者は警告している。これは言語の喪失の問題にとどまらない。学校での子供の成功や、長期的な家族や社会とのつながりにまでマイナスの影響を及ぼすのだ。学校では、学習意欲を失いやすくなり、学習が困難になり、早期退学も増える。¹³⁵

「若者にとって、親と子供の言語の隔たりは、心理的な隔たりにつながる。子供は家でも学校でも疎外されるようになる。その結果については言うまでもない。」¹³⁶

「子供は、家族や社会の中で、優れた第2外国語の話者になるかもしれないが、それは、文化的遺産とつながる能力を失う危険性をはらんでいる。」¹³⁷

これらの研究者の警告は、まさに、チベット人が証言した内容や懸念点そのものである。子供たちは自身の言語を失うだけでなく、家族、文化、社会に対する興味、つながりをも失っている。

130 インタビュー 6

131 Liang Junyan, "Debunking the Lie that People in Xizang Are Forced to Use Common National Language," Global Times, April 27, 2023, Op-ed, available at <https://www.globaltimes.cn/page/202304/1289913.shtml> (accessed August 15, 2024), Internet Archive: <https://web.archive.org/web/20250515181411/https://www.globaltimes.cn/page/202304/1289913.shtml>.

132 Jessica Ball, Global Partnership for Education, "Children Learn Better in Their Mother Tongue," February 21, 2014, available at: <https://www.globalpartnership.org/blog/children-learn-better-their-mother-tongue> (accessed February 22, 2025).

133 Jessica Ball, "Educational Equity for Children From Diverse Language Backgrounds: Mother Tongue-based Bilingual or Multilingual Education in the Early Years," UNESCO, 2011, available at: <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000212270> (accessed October 19, 2024), 6.

134 Cummins, Jim. "Bilingual Children's Mother Tongue: Why Is It Important for Education?" Sprogforum 7, no. 19 (2001), 18.

135 Ball, "Educational Equity for Children From Diverse Language Backgrounds," 6.

136 Cummins, 19.

137 Ball, "Children Learn Better in Their Mother Tongue."

子供たちへの心理的影響

4歳になった子供たちを家族、社会から引き離し、母語を禁じ、自らを中国人と見なすよう洗脳することで、子供たちは心理的な悪影響を背負うことになる。

寄宿制学校・幼稚園に到着した子供たちは、家族と離れたことによるトラウマを抱くようになる。突然新しい言語・文化環境に置かれることもトラウマだ。現在は亡命先で暮らしている寄宿制学校の元学生は次のように証言している。

最初の数日間が大変だったのを覚えています。家族がいないのは寂しかったです。泣くこともできませんでした。中国語がわからず、他の生徒や先生と会話ができませんでした。同じように家族がいない寂しさから泣いている子供もいました。幼い子供たちは、夜になると起き上がって泣き出し、校門に向かって走っていました。¹³⁸

「幼い子供たちは、夜になると起き上がって泣き出し、校門に向かって走っていました。」寄宿制学校の元生徒

元学生はこう続けた。

学校には、夏休みと冬休みがありました。また、10月1日の国慶節のタイミングで5日の休みがありました。私の村は車で1日かかるころにあつたので、国慶節の時は自宅に戻りませんでした。家族とはあまり会えませんでした。家族と会えない寂しさが一番大変でした。学校では、私のグループは20人ほどでした。私のグループは、家にあまり帰れず、家族ともあまり連絡が取れない人たちのグループでした。

その後、元学生は、寄宿制学校が与える心理的影響について説明してくれた。

寄宿制学校は、中国政府の大規模プロジェクトです。当時の私は幼く、中国語もわかりませんでした。先生や他の学生に話しかけるのが怖かったです。親がいないのが毎日寂しかったです。その後、誰かに話しかける勇気は完全になくなり、人がいる場所には行かないようになりました。学校ではあまり勉強することができませんでした。悲しみに打ちひしがれ、絶望していたのです。¹³⁹

「学校では、自分が囚人のように感じることもありました。」寄宿制学校の元生徒

他の元学生も、家族と切り離され、家に帰れなかったことが最も大変だったと語っている。¹⁴⁰ ある元生徒は次のように言った。

「学校では、自分が囚人のように感じることもありました。」¹⁴¹

子供が自ら命を絶った最悪のケースもある。RFAによると、2024年、寄宿制学校に入ることを強要された17歳の僧侶が自殺したという。この僧侶は、14歳のときに僧院から寄宿制学校に連れて行かれたという。学校の休暇期間も僧院に戻ることは許されず、鬱状態になり、食べ物も喉を通らなくなり、病気を患ったという。その後、この僧侶は自宅に戻ることを認められたという。

当局は当初、僧侶が条件付きで学校で袈裟を身に着けたり、学校の敷地外に出たりすることを認めていた。しかし、2024年に入ってから、規制が厳しくなった。僧侶が袈裟を身に着けることは禁止され、常時学校の敷地にいることを強要された。ある人物は次のように語った。

138 インタビュー 12

139 インタビュー 12

140 インタビュー 14

141 インタビュー 13

「『袈裟を着ることが禁じられ、私服で学校にいることを強いられば、自殺する』と彼は言っていました。」

新たな規制の導入後、この僧侶は再び鬱状態になり、自ら命を絶った。¹⁴²

「寄宿制学校は、親と子供のための壁となっています。チベット語、チベットの生活様式、文化、伝統は、壁で隔てられています。」¹⁴³

チベット語の能力、チベット文化のルーツを奪われた子供たちは、様々な形でチベットから遠い存在になってしまっている。

「若い子供たちは、地元の地名も、植物、鳥、動物の名前も知りません。」¹⁴⁴

また、別の寄宿制学校に通っていた人物は、馬に乗ったり、台所で料理のための火をつけたり、という日常が「失われた」と感じたという。そして、ヤクのような動物が襲ってくるのではないかと恐怖を抱くようになったという。これは、中国語による指導と洗脳という極端な措置を、習近平が開始する以前のまだ規制が緩かった時代の話である。¹⁴⁵

子供と家族、地域との社会的な感情のつながりも失われている。近年インドに亡命したチベット人は、寄宿制学校が家族に与えた影響について証言してくれた。

「寄宿制学校に暮らす姪は、休暇中に家に帰ると、1人になることを好んでいました。家族との会話はしませんでした。」近年地亡に成功したチベット人

寄宿制学校に暮らす姪は、休暇中に家に帰ると、1人になることを好んでいました。家族との会話はしませんでした。寄宿制学校で学ぶ子供たちには、祖父母や両親と、文化的ギャップ、会話の壁が生まれます。祖父母や両親が中国語を理解できないからです。¹⁴⁶

別のチベット人は次のように語った。

甥と姪は中国語しか話しません。家に帰った時も、家事は何もしません。子供たちは感謝の気持ちを忘れており、時に、傲慢になっています。学校に行った結果がこの有様であれば、子供を学校に行かせない方がいいと親たちは考えています。¹⁴⁷

チベット人を含む非漢人が寄宿制学校で受ける社会的、心理的悪影響について触れた学術論文がチベット人からも中国人からも出されている。2020年に中国学術機関が出した「少数民族地域」の寄宿制学校に関する研究によると、学校では学生の肉体的・精神的健康に対する対応が不十分だという。特に、若い子供への対応が不足しているという。研究者によると、子供たちは親からの世話を受けられず、無力感と孤独感を感じていることが多いという。教師や寮の管理人によると、子供たちは親がいない寂しさで夜に泣くことがよくあるという。毎年、新しい学生が夜に泣かないようになるには数日かかるという。また、いじめを経験している学生も多く、いじめられた学生は大きな精神的苦痛と恐怖を味わうという。¹⁴⁸

142 Radio Free Asia, “Exclusive: Teen Tibetan Monk Takes Own Life After Being Forced to Leave Monastery,” May 28, 2024, available at: <https://www.rfa.org/english/news/tibet/monk-robe-death-05282024152017.html> (accessed January 24, 2025).

143 インタビュー 3

144 インタビュー 3

145 インタビュー 3

146 インタビュー 6

147 インタビュー 4

148 Luo, Zhengpeng & Yuan, Ziqian. 民族地区小学寄宿制教育: 功效、挑战与发展 [Primary Boarding Education in Ethnic Areas: Efficacy, Challenges and Development]. Contemporary Education and Culture, 12, no. 6 (2020), 106.

2021年、ウ・ツァンの2つの地域で、寄宿制中学校に暮らすチベット人学生3,500人のメンタルヘルスに関する研究が行われた。そして、チベット人中学生の精神的問題が比較的多いことが明らかになった。ホームシック、勉強のプレッシャー、イライラ、孤独、対人関係の緊張、劣等感が多く見られたという。また、家から離れて思春期を迎えたチベット人女性の精神が「きわめて不安定」になっているケースも多く見られたとのことだ。¹⁴⁹

寄宿制学校がチベット人の子供の幸福に悪影響を及ぼすことが知られるようになったのは10年以上前である。Tibet Action Institute の第1弾の報告書で引用したとおり、2016年の学術論文で、東チベットの2つの学校の中学1年生から高校3年生の3分の1以上が強い孤独感を抱えていることが明らかになっている。彼らは、精神的苦痛、喪失感、他者と意義ある交流ができない問題を抱えていた。同論文は、強い孤独感に伴い、行動の問題、薬物乱用、自殺が起きていることも指摘している。¹⁵⁰ また、2014年の研究では、寄宿制学校のチベット人学生が様々な精神的な問題を抱えていることが明らかになった。それには、無関心、不安、対人相互作用障害などが含まれる。¹⁵¹ 2016年の論文では、ストレス発散の術がなければ、学生は、「不安、イライラ、精神不安定、ひどい場合には、鬱」になると警告されている。引きこもりになるケースもあるという。

「さらに懸念されるのは、絶望した学生が、自殺願望を抱くことである。」¹⁵²

これらの研究は、寄宿制学校に暮らす子供たちが大きな精神的、社会的悪影響を受けているというチベット人の主張を補強するものである。喪失感、ホームシックに加え、家族や社会から徐々に子供たちを孤立させることを狙った意図的なアイデンティティの作り変えが行われている。自分自身の定義が子供の中で変わってしまうのだ。これが長く続くと、子供と家族の距離は隔たったままとなり、修復不能な溝が生まれることになる。そして、子供と社会・他のチベット人との関係も変わってしまう。社会的な結びつきは崩壊し、チベット人を何世紀にもわたって結び付けてきた規範、制度までもが姿を消すことになる。

149 Zhao, Hengshan, Jiang, Yongzhong & Ye, Fujun. 异地办学和寄宿制下藏族中学生心理健康实证研究: 以西藏那曲、阿里两地中学为例 [An Empirical Study on the Mental Health of Tibetan Middle School Students Under Off-Site Education and Boarding System: Using Middle Schools in Nagchu and Ngari Regions of Tibet as Examples]. *Journal of Guangxi Institute of Education*, no. 4 (2021), 182.

150 Cao, Gazang. "Alienation of Tibetan Adolescents in Rural Boarding Schools." *Frontiers of Education in China*, 11, no. 4 (2016), 503-504.

151 Xiaoping, Wang & Tashi Dondrob. 藏区寄宿制学校有效植入家庭教育策略探析 [An Analysis of Strategies for Effectively Implanting Family Education into Boarding Schools in Tibetan Areas]. *Industry and Information Technology Education*, (2014), 89.

152 Li, Chengxiang. 关于少数民族地区寄宿生心理存在的问题研究: 以天祝藏族自治县为例 [Research on Psychological Issues Among Boarding Students in Ethnic Minority Areas: A Case Study of Pari (Chinese: Tianzhu) Tibetan Autonomous County]. *Educational and Teaching Research*, Gansu Provincial Institute of Education and Science, (2016), 13.

植民地のイデオロギーから民族差別へ

チベット人のアイデンティティを、均一で単一言語の中国文化のアイデンティティに置き換えようとするプロジェクトは、民族全体の変容を狙った野望に満ちている。このプロジェクトが、漢人が優位であるという植民地主義イデオロギーによって動いていることを、私たちは2021年の第1弾の報告書で指摘した。¹⁵³ 中国政府の声明、政策の指示、中国学術機関の著作物¹⁵⁴ には、民族差別的な世界観が表れている。その世界観は、チベット人が文明的に遅れた恩知らずの野蛮人で、中国文明によって授けられる現代文明の恩恵を求め、感謝しているという固定観念である。

中国人が優れていてチベット人が劣っているという想定が、中国のチベットにおける植民地的な教育システムのあらゆる側面の根底にある。

中国人が優れていてチベット人が劣っているという想定が、中国のチベットにおける植民地的な教育システムのあらゆる側面の根底にある。¹⁵⁵ この最たる例が、学校教育のあらゆる場であらさまに中国語と中国の文化規範を重視し、チベット語、チベットの文化、仏教の慣習を軽視している点だ。しかし、他のところにも偏見がある。例えば、経済的、社会的及び文化的権利に関する国連委員会の質問に対する中国政府使節の回答だ。チベット人の子供たちが中国語を学ばなければならないのは、チベット語は科学、技術、工学、数学分野の語彙が少ないからだと彼らは説明した。¹⁵⁶

中国側のこの主張は、カムとアムドで、2020年頃まで数学、化学、生物、地理がチベット語で教えられていた事実を無視するものだ。2020年頃、中国当局は、教育の場でチベット語が使われる範囲を狭め、中国語のみを使う教育に舵を取り始めた。中国側の主張にはもう1つの問題点がある。技術分野で新発見があった場合にそれに対応する技術用語がないという問題は、チベット語に限った話ではなく、あらゆる言語について言えるという事実を無視している点である。中国が社会学や自然科学をカリキュラムに組み入れた際に、中国語にない数千の単語を日本語や英語から持ってきたのはそれほど昔の話ではない。¹⁵⁷ 現代科学技術などの分野では、あらゆる言語において専門用語の拡大が続いている。チベット語も例外ではない。科学、技術、工学、数学分野はチベット語では教えられないという中国政府の主張は、中国政府自身が出版した分厚い「科学技術中国語・チベット語・英語辞典」の存在を鑑みると、皮肉としか言いようがない。¹⁵⁸

中国政府の寄宿制学校の正当化は、自分の承認欲求のために他者を助けたいという姿勢そのものである。これは、初期の植民地主義に見られた姿勢である。上述した中国政府使節は国連の場で寄宿制学校の正当化を続けた。

「チベット高原は、酸素が比較的薄いです。研究のためにチベットに行きましたが、現地の学生の身長が他の地域の学生より低いことに気がきました。人々は、お互い離

153 Tibet Action Institute, "Separated from Their Families, Hidden from the Word," 11. 154 For recent examples of academic bias, see controversy around an article published in Cultural Diversity & Ethnic Minority Psychology, available at: <https://psycnet.apa.org/fulltext/2025-31211-001.html> (accessed January 29, 2025).

154 最近の偏った学術記事の一例として、議論を呼んだ次の記事がある。Cultural Diversity & Ethnic Minority Psychology, available at: <https://psycnet.apa.org/fulltext/2025-31211-001.html> (accessed January 29, 2025).

155 例えば以下の記事。Huatse Gyal. "Our Indigenous Land is Not a Wasteland." American Ethnologist, February 6, 2021, available at: <https://americanethnologist.org/features/reflections/our-indigenous-land-is-not-a-wasteland> (accessed January 24, 2025).

156 United Nations – UN Web TV, "7th Meeting, 73rd Session, Committee on Economic, Social and Cultural Rights (CESCR)," beginning at 1:42:17, available at: <https://webtv.un.org/en/asset/k1v/k1vrez9w0u> (accessed January 24, 2025).

157 Leibold, James and Dorjee, Tenzin. "Learning to Be Chinese: Colonial-Style Boarding Schools on the Tibetan Plateau." Comparative Education, 60, no. 1, (2023).

158 China Tibet Online, "The Chinese-Tibetan-English Dictionary of Science and Technology Officially Published by Minzu Publishing House," March 30, 2023, available at: http://m.tibet.cn/eng/news/tibetan/202303/t20230330_7389179.html (accessed November 26, 2024), Internet Archive: https://web.archive.org/web/20250506144824/https://m.tibet.cn/eng/news/tibetan/202303/t20230330_7389179.html.

れた場所に暮らしています。そのため、学生が学校に通うのは難しいです。教育の質の保証も難しいです。」¹⁵⁹ 最近の Le Monde 紙の記事でも中国国営メディアによる同様の議論が取り上げられている。中国国営メディアの主張は次のようなものであった。

「平均標高が4,200メートルのチベット高原では、人々はお互いに離れて暮らしている。気候も厳しい。これらのことが、低い教育の質の原因になっている。中国の都市にある寄宿制学校で学べば、試験の成績は向上する。」¹⁶⁰

中国政府のこれらの主張は、民族差別主義の枠組みをチベット人に押し付けるものだ。中国政府はチベット人が運営する質の高い学校を拡大する支援はしない。その代わりに、チベット人による教育を停止し、中国式教育に置き換えるためにあらゆる手段を講じてきた。文化を尊重し地域に根差した教育を目指してきたチベット人研究者、教師、親の多大な努力は、この20年間報われていない。チベットの私立学校は閉鎖され、チベット人教師は職を追われ、教師のためのチベット語トレーニング教材も姿を消している。ギャロ博士によると、かつては、教師養成所が多くあったという。しかし、この10年の間に中国当局によって閉鎖されている。

「当局は、意図的に、チベット人教師の教育の場を奪っているのです。それにより、教育の質が低下しています。そして、中国当局は、チベット人教師の質が低いと非難し、中国人教師が必要だと言うのです。」¹⁶¹

この問題の根底にあるのは、寄宿制学校が21世紀の今なお残るおぞましい移住型植民地政策であるということだ。この寄宿制学校は、19世紀から20世紀にかけて北米やオーストラリアで行われた悪名高い寄宿制学校や子供の家族からの引き離しと同類のものである。北米やオーストラリアでは、土着のコミュニティが破壊され、文化が消し去られ、強制同化が行われた。そして、その子孫には世代を超えたトラウマが残った。この後、西洋諸国は、ジェノサイド政策の結果について考え始めた。2024年11月、アメリカのバイデン大統領は、過去のアメリカ政府の政策が「アメリカ史に残る汚点」であるとして謝罪した。¹⁶² カナダとオーストラリア政府が植民地主義的な犯罪に対する自責の念を表明したことを受けてのものであった。これとは対照的に、中国政府は過去を振り返る姿勢を微塵も見せていない。それどころか、カナダ、アメリカ政府の過去の悪行を引き合いに出し、中国政府のチベット人への残虐行為を正当化しようとしている。¹⁶³

つまるところ、中国政府が展開する寄宿制学校の狙いは、チベット人の子供を家族、言語、伝統から引き離し、体系的に次世代のチベット人をチベット文化とは切り離された環境で成長させることだ。これは、過去の歴史の繰り返しではない。計画の上で行われていることだ。残忍な国家が特定の民族に狙いを定めた現代における残虐行為だ。中国は、「進歩」、「発展」という言葉を使って、植民地主義的な野心に満ちた弾圧政策を覆い隠そうとしている。

159 United Nations – UN Web TV, “7th Meeting, 73rd Session, Committee on Economic, Social and Cultural Rights (CESCR),” beginning at 144:36.

160 Le Monde, “The Tibetan Children Taken to Boarding Schools to Sever Their Roots,” April 8, 2025, available at: https://www.lemonde.fr/en/international/article/2025/04/08/the-tibetan-children-taken-to-boarding-schools-to-sever-their-roots_6739949_4.html# (accessed May 12, 2025).

161 ギャロ博士へのインタビュー (2025年4月25日)

162 BBC, “Biden Apologises for Indian Boarding Schools ‘Blot on History,’” October 25, 2024, available at: <https://www.bbc.com/news/articles/c704z4qxzeno> (accessed February 22, 2025).

163 例えば下記。Global Times, “China Strongly Opposes US’ Illegal Visa Sanctions on Officials Over So-Called Forcible Assimilation in Xizang,” August 23, 2023, available at: <https://www.globaltimes.cn/page/202308/1296824.shtml> (accessed May 12, 2025), Internet Archive: <https://web.archive.org/web/20250515195921/https://www.globaltimes.cn/page/202308/1296824.shtml>.

結論：寄宿制学校の代替策とチベット人の抵抗

中国共産党の統治下に生きるチベット人を含む非漢人を、中国政府は単一民族のアンデンティティに無理やり押し込めようとしている。文化の違いをなくしておけば、政権に対する潜在的な脅威をなくすことができると考えているからである。チベットでは、この目的のために子供たちが利用されている。子供たちは政府から操作される対象に成り下がり、抑圧的な教育政策が、学校内外を問わず、子供たちの人生に入り込んでいる。その最たる例が、寄宿制学校・幼稚園である。子供たちは虐待、不当な扱いを受ける。子供が家族から引き離されるのは4歳のときだ。子供たちは中国共産党思想を叩き込まれ、自身の言語・文化から引き離される。他の学校の選択肢はほぼない。村の学校、チベット人が運営する私立学校は強制閉鎖されている。子供たちが僧院・尼僧院に行くことも禁止だ。親に残された選択肢は子供を寄宿制学校に送ることだけだ。問題は寄宿制学校そのものだけにとどまらない。中国当局は、学校休暇中に自宅に戻った子供たちがチベット語クラス、宗教活動に参加することを禁じている。

寄宿制学校の存在は個人の幸福を脅かすだけではない。チベットの言語、文化が存亡の危機に瀕しているのだ。すなわち、チベット人が独自の民族として生きていけるかの問題である。

寄宿制学校、それに関連する政策によって、子供たちは自らの言語、宗教、文化、家族、アイデンティティから切り離されている。社会とのつながりを絶たれた子供たちは精神的な悪影響を受ける。寄宿制学校の存在は個人の幸福を脅かすだけではない。チベットの言語、文化が存亡の危機に瀕しているのだ。すなわち、チベット人が独自の民族として生きていけるかの問題である。中国政府は、チベットの文明化が必要だと主張しているが、これは、チベット人が中国人より劣っているという植民地主義的な見方に由来するものだ。

寄宿制学校に代わる策は存在する。ギャロ博士は、チベット人の教育の可能性について語っている。

「自身の文化と言語を若い世代が引き継ぐ文化教育と、第2言語、第3言語の学習は両立可能です。子供たちが自らの伝統、文化、言語に精通し、同時に、現代的な内容も学んでいく必要があります。現在中国政府がやっているような大規模な寄宿制学校の建設に投資を行うのではなく、チベット人の雇用、チベット人のためになる教育システムの開発に資源が割かれなければなりません。チベットの文化に即したカリキュラムと教科書をつくる権利をチベット人教師に与えるべきです。また、教師のトレーニングプログラムの再開、村の学校の再開校も必要です。子供たちが小さい頃からチベット語の読み書きができるようにするのが最優先事項です。また、未就学の子供たちは家に両親と一緒にいることを認められるべきです。そうすることで、子供の精神は満たされ、自宅にいても学びを得ることができます。」¹⁶⁴

真のチベット教育を前に進める資源はまだ残されている。数年前、チベット人学者、親、教師300人が集い、チベット人の子供の教育のあり方について議論した。基調講演では、文化的な意義のある母語教育を幼稚園世代の知能向上の基本にすべきと述べられた。そして、チベット独自の文化、言語、アイデンティティ、生活様式、物事の見方に対応した教育政策の必要性が提起された。¹⁶⁵ 大学教授や教師は、伝統や方言が多岐にわたるチベット語教育の新たな教材開発を、限られた制約の中で行っている。また、子供の精神的ニーズ、発達段階でのニーズに対応しようとしている。チ

164 ギャロ博士へのインタビュー（2025年4月25日）

165 Throwo Gyantsen. 鉴泽教育研究中心第四届藏区教育论坛藏区学前教育学术讨论会主题演讲论文 [The Principles of Physical and Mental Development of Infants and Young Children and Preschool Education in Tibetan Areas]. Keynote paper of the 4th Tibetan Education Forum: Tibetan Preschool Education Symposium of Gyantsen Education Research Center, November 11-19, 2016.

ベトナム教師たちは文化に根差した教育を受けた子供たちの識字率を上げるべくたゆまぬ努力を行っている。これは、早い段階での言語習得を容易にするだけでなく、大人になってからの対話能力の向上にも資する。しかし、2022年以降、中国政府は、このようなプロジェクトを禁じ、子供たちのチベット語の識字率向上を目的とした文書の発行を禁じた。子供のチベット語識字率向上を目的とした書物の書店での販売が禁止され、学校で配布した際には罪に問われるようになった。今日、チベット語教育は抑圧され、チベット人が運営する学校は閉鎖されている。しかし、チベット語教育を何とか推進しようとしている人たちがまだ存在する。

地域によっては、中国政府に反抗していると判断されると厳しい罰を受けることもある。¹⁶⁶ このような場所では、中国政府を公然と批判する抗議が起きるのは珍しい。アメリカの NGO Freedom House が最近発表した「世界の自由度ランキング」で、チベットのスコアは0点で、ウクライナに次いで、世界で2番目に自由がない場所と判定された。¹⁶⁷しかし、大きなリスクに直面しながらも、チベット人は、自らの言語、文化、アイデンティティを保存する策を模索している。チベット人の子供たちが大人になった時に、自身をチベット人と認識し、チベット語を話し、チベットの歴史を知っている、そのような未来を夢見ているのだ。インターネットでの議論は逮捕につながる危険性があるため、インターネットで議論する際には細心の注意を払った言葉遣いをしている。彼らは、懸念を表明する一方で、それぞれの家族が何をできるか、考えを共有している。寄宿制学校から子供を遠ざけたり、当局から見つかるのを防いだりする方法を考えている人もいる。¹⁶⁸ 授業にもっとチベット語を組み込めないかと腐心している教師もいる。¹⁶⁹ そして、時に、親、知識人、そして、子供が声を上げている。¹⁷⁰

寄宿制学校の影響下にある子供たちは多く、彼らは1日また1日と自らの言語とアイデンティティを忘れていっている。カナダ、アメリカ、オーストラリアは、寄宿制学校を通じて原住民を消し去り、原住民の子供たちを家族から引き離す植民地的なプロジェクトをかつて行っていたが、今となってはその過ちを認めている。このプロジェクトは、原住民の子供、家族、社会、文化、言語におぞましい被害をもたらした。その傷は未来の世代にも及んでいる。

今世界が動けば、チベット人が悲劇的な運命をたどるのを回避できる。中国政府が行っている有害な政策から逃れることを可能にするリソース、人材は今も存在する。チベットの文化と伝統を維持したチベット人による教育と、現代の質の高い教育を両立させることは可能である。そのためには、国際社会のみならず、みなさんにさらなるチベット支援をお願いしたい。次章に、中国政府、各国政府、国連、専門家、指導者に向けた提言を掲載しているので、ご一読願いたい。

166 例えげ下記。Radio Free Asia, "Tibetan Language Rights Advocate Under Surveillance After Release from Detention," November 13, 2024, available at: <https://www.rfa.org/english/tibet/2024/11/13/tibet-language-rights-activist-detained/> (accessed January 15, 2025) and Radio Free Asia, "Tibetan Champion of Language Preservation Dies after Release," December 23, 2024, available at: <https://www.rfa.org/english/tibet/2024/12/23/champion-language-preservation-dies/> (accessed January 16, 2025).

167 Freedom House, "Freedom in the World 2025," February 2025, 7, available at: https://freedomhouse.org/sites/default/files/2025-02/FITW_World_2025_Feb.2025.pdf (accessed March 16, 2025).

168 ギャロ博士へのインタビュー (2024年10月10日)、インタビュー 16

169 例えげ下記。Radio Free Asia, "China Expels Teacher for Pushing for Students to Use Tibetan Language," April 17, 2024, available at: <https://www.rfa.org/english/news/tibet/teacher-expelled-04172024160617.html> (accessed October 11, 2024).

170 例えげ下記。Radio Free Asia, "Netizens Demand China Reinstate Tibetan Language Use in Schools," April 4, 2025, available at: https://www.rfa.org/english/tibet/2025/04/04/tibet-language-white-paper/?int_cid=story_card:rc_v1_2025-04-04-tibet-language-white-paper:story_page:1of3:18of19 (accessed April 22, 2025), Radio Free Asia, "Four Tibetan Teens Detained for Resisting Going to Chinese Schools," October 8, 2024, available at: <https://www.rfa.org/english/news/tibet/tibet-teens-detainedbuddhist-schools-china-10082024170151.html> (accessed October 25, 2024).

提言

中国政府へ

1. 子供たちを僧院や自宅から強制的に連れ出し、国の寄宿制学校に入れるのをただちに停止すること。
2. 寄宿制学校・幼稚園の新規建設を一時停止すること。
3. チベット人が暮らす寄宿制学校で起きている虐待、不当な扱い、死亡、精神上の問題について民間調査を行うこと。
4. 寄宿制学校制度を廃止し、村や僧院の学校の閉鎖を停止し、チベットの私立学校の再開校を認め、子供が自由に宗教活動に関わるのを認めること。
5. 学校などでチベット語の使用と保存を求めて投獄されたすべてのチベット人に対する罪状を取り下げ、釈放すること。
6. 学校で使用する言語をチベット語から中国語に置き換える欺瞞に満ちた「バイリンガル政策」を改めること。中国のアイデンティティ、歴史、文化中心の教育からチベット人教育者が開発した、チベット人のニーズに即したチベット語カリキュラムを認めること。
7. チベット人教師の解雇をやめ、チベット、特に地方部で、チベット人教師の雇用とトレーニングを増やすこと。解雇したチベット人教師の代わりに中国人教師を雇用するのをやめること。チベット人学生が家族から切り離されることなく、地元で、チベット語を使った質の高い教育を受けられるようにすること。

チベット人の人権に関心がある各国政府へ

1. 中国の指導者が貴国を訪問した際、貴国の指導者が中国を訪問した際、政府間高官会議を行う際を含む中国政府担当者とのあらゆる会合の場で、植民地主義的な寄宿制学校システムの即時廃止を求めること。これは、国連特別報告者、経済的、社会的及び文化的権利に関する国連委員会、国連女子差別撤廃委員会の提言である。
2. 肉体的虐待や不適切な扱いがあることが知られている学校の当局者、チベット人の人権に反する教育政策を策定し実行している知識人と役人に対し、調査を行い、経済制裁、ビザ制裁を行うこと。チベット人の人権侵害政策には、寄宿制学校・幼稚園、学校で使用する言語からのチベット語の削除、チベット人が運営する私立学校・休暇中の学校の閉鎖、僧院から寄宿制学校への子供たちの連れ出しも含まれる。
3. 国連人権委員会のメンバー国は、寄宿制学校に関する人権違反の範囲と程度、とりわけ、子供が直面している緊急のリスクを認識し、2025年の中国に関する特別セッションを支持すること。
4. チベット語・文化の啓発と保護を支援する教育プログラムを支持すること。この教育プログラムには、チベット人が運営する週末学校、休暇中の文化・言語キャンプ、チベット語集中プログラム、チベット語を使用したカリキュラム開発、子供用の漫画動画を含むチベット語デジタルコンテンツ、チベット人学生・教師・学者のための高等教育の機会提供も含まれる。
5. 民間機関と外交ルートを通じてチベット語トレーニングに経済的支援を行うこと。

国連事務総長へ

1. 4歳以上のチベット人の子供を家族から引き離し寄宿制学校での洗脳教育を行っている中国の政策を非難すること。

国連人権高等弁務官、国連人権理事会へ

1. 任期の半分が経過した国連人権高等弁務官は、本報告書で述べられているようなチベット人の子供たちを脅かす広範で体系的な虐待について十分に取り組んでいない。中国政府の寄宿制学校システム・反チベット人カリキュラムを明確かつ無条件に非難し、寄宿制学校システムの廃止・チベットの村と僧院の学校の閉鎖停止・チベットの私立学校の再開校の許可を中国政府に求めることを国連人権高等弁務官にお願いしたい。
2. すでに寄宿制学校に懸念を表明している特別報告者、子供の権利に関する委員会、女子差別撤廃委員会、人種差別撤廃委員会の専門家と提携し、国連人権高等弁務官には、全寄宿制学校の調査を行い、特別報告者がチベット自治区およびそれ以外のチベット地域を継続的に訪問できるように中国政府に求めることをお願いしたい。
3. 国連人権理事会には、寄宿制学校の影響範囲と程度、とりわけ、子供が晒されている差し迫った危険を認識し、2025年に中国に関する特別セッションを招集することをお願いしたい。

国連条約機関、特別報告者へ

1. チベットにおける同化主義的な教育政策について中国政府と過去に直接対話を行った民族問題に関する特別報告者、文化的権利に関する特別報告者、教育の権利に関する特別報告者、宗教と信仰の自由に関する特別報告者には、寄宿制学校と関連政策およびチベット人家族と子供への影響について深刻な懸念を表明し続けることをお願いしたい。
2. 任務保持者には、本報告書内の証拠を基本情報として使い、中国政府との対話を行い、寄宿制学校・幼稚園における虐待と不当な扱い、精神的・文化的悪影響について深刻な懸念を表明することをお願いしたい。
3. 本報告書内の情報を、子供の権利に関する委員会の中国政府に対するレビューで使うことをお願いしたい。

日本の皆様へのお願い

私たち、チベット内外のチベット人は、皆様の支援を必要としています。私たちは、皆様や皆様の所属団体より、以下のような支持声明を公表していただけることを、切に願っております。

1. 中国政府に対し、中華人民共和国憲法第4条を遵守し、少数民族の地域的自治と自己統治を約束し、チベット人に真の自治と自己統治を實踐させるよう要請する。
2. 中国政府に対し、少数民族の言語と宗教の自由を保障した、中国の民族区域自治法第10条と第11条を實施するよう求める。
3. 中国政府による人権侵害、ならびにチベット人の言語、文化、アイデンティティの中国化政策を非難する。
4. チベット語は重要な古代語であり、仏教の教えの宝庫である。この言語を根絶することは、世界遺産にとって大きな損失である。
5. 私たちは中国政府に対し、チベット人の子どもたちから母語を奪わないこと、そして全寮制の学校でチベット人の子どもたちに強制的に教え込むことをやめるよう強く求める。
6. 中国政府による宗教迫害、チベット仏教僧院や仏像の破壊、高僧の転生や僧院の管理を含むチベットの宗教問題への干渉を非難する。
7. 中国政府に対し、パンチェン・ラマ11世とその家族の所在を明らかにし、早急に解放するよう求める。
8. ダライ・ラマ15世を含む高僧の転生の選定は、チベット人とダライ・ラマ法王庁の特権であると断言し、日本でも2020年米国チベット政策支援法案のような法案の成立を求める。
9. 中国が任命・選定した将来のダライ・ラマを含むいかなるチベットの転生僧も、国際社会には認められないという声明を公表し、すべての転生僧の選定は、古くからの宗教的伝統に従ってチベット人に委ねられるべきである。
10. 将来のダライ・ラマ法王を含め、すべての転生層の選定は、古くから宗教的伝統に従ってチベット人に委ねられるべきであり、中国が選定・任命したいいかなるチベットの転生層も国際社会が認めないことを求める。

謝辞

本報告書は、多くの研究者、活動家、学者の支援を受けて、Tibet Action Institute のスタッフが行った研究を報告書の形にまとめたものである。専門知識を提供して下さったすべての方々、個人的経験を共有して下さり、それを報告書に盛り込む許可をくださったすべてのチベット人のみなさんに感謝を申し上げる。

発行日: 2025年5月。和訳2025年12月
著者名: Tibet Action Institute
和訳発行者: チベットハウス・ジャパン
〒161-0031東京都西落合3-26-1
TEL: 03-5988-3576
FAX: 03-3565-1360
<https://www.tibethouse.jp>
Email: tibethouse.jp.net

印刷会社:

「私たちの子供を連れ去りに彼らがやって来たあの日」

中国式寄宿制学校の実態とチベットの未来

民族同化のための道具としてチベット人の子供が使われている。子供たちは、中国政府の植民地主義的な寄宿制学校・幼稚園システムの標的になっている。4歳の子供までもが家族から引き離され、中国共産党に忠誠を誓うよう洗脳され、自らの言語と文化を奪われている。学校では虐待、不当な扱いも横行している。

子供たちの逃げ道を中国政府は着実に絶っている。チベット人が運営する村の学校は閉鎖されている。若い僧侶や尼僧は僧院を追われ、寄宿制学校に送られている。学校の休暇中も、チベット語クラスや宗教活動に参加することは禁止だ。

Tibet Action Institute から国連、各国政府への提言がある。寄宿制学校での虐待、不当な扱い、死亡、精神上の問題について民間調査を行うことである。子供たちを強制的に寄宿制学校・幼稚園に入れる中国政府の政策を廃止させ、チベットの子供たちが自宅で暮らしながら質の高いチベット語教育を受けられるようにすることが急務である。



チベットにおける中国の
寄宿制学校に関する
最新情報はこちら



TibetAction.net



Tibet Action Institute

བོད་དོན་ལས་འགུལ་བསྐྱོད་གནས་ཁང་།